

「丹後天橋立ミュージアムを中核とした文化観光推進拠点計画」

令和8年6月

「丹後天橋立ミュージアムを中核とした文化観光推進拠点計画」

1. 実施体制

文化資源保存活用施設	名称	京都府立丹後郷土資料館 (丹後天橋立ミュージアム)	所在地	〒629-2234 京都府宮津市字国分小字天王山 611-1
申請者 文化資源保存活用施設の設置者	名称	京都府	所在地	〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町
	代表者	知事 西脇 隆俊		
	地方公共団体内部の役割	【主担当部署】教育庁指導部文化財保護課（文化財保護活用） 【連携する部署】総合政策環境部地域政策室（総合調整）、商工労働観光部観光室（観光振興）、染織・工芸課（織物産業振興）、文化生活部文化政策室（文化振興）、文化芸術課（文化芸術振興）、丹後広域振興局（地域振興）、京都府織物・機械金属振興センター（織物調査研究）		
共同申請者 ① 文化観光推進事業者	名称	宮津市	所在地	〒626-8501 宮津市字柳縄手 345-1
	代表者	市長 城崎 雅文		
	役割	施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者		
共同申請者 ② 文化観光推進事業者	名称	京丹後市	所在地	〒627-8567 京丹後市峰山町杉谷 889 番地
	代表者	市長 中山 泰		
	役割	施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者		
共同申請者 ③ 文化観光推進事業者	名称	伊根町	所在地	〒626-0493 与謝郡伊根町字日出 651 番地
	代表者	町長 吉本 秀樹		
	役割	施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者		
共同申請者 ④ 文化観光推進事業者	名称	与謝野町	所在地	〒629-2292 与謝郡与謝野町岩滝 1798 番地 1
	代表者	町長 佐賀 利裕		
	役割	施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者		
共同申請者 ⑤ 文化観光推進事業者	名称	公益社団法人 京都府観光連盟	所在地	〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町 府庁 2 号館 3 階
	代表者	会長 田中 誠二		
	役割	施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者		
共同申請者 ⑥ 文化観光推進事業者	名称	一般社団法人京都府北部 地域連携都市圏振興社 (通称：海の京都DMO)	所在地	〒629-2501 京丹後市大宮町口大野 226 京丹後市役所大宮庁舎内
	代表者	社長 村瀬 茂高		
	役割	施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者		
共同申請者 ⑦ 文化観光推進事業者	名称	丹後海陸交通株式会社	所在地	〒629-2301 与謝郡与謝野町上山田 641-1
	代表者	社長 武田 浩彦		
	役割	施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者		

共同申請者 ⑧ 文化観光推進 事業者	名称	WILLER TRAINS 株式会社	所在地	〒626-0041 宮津市鶴賀 2065-4
	代表者	社長 飯島 徹		
	役割	施行規則第 1 条第 2 項第 2 号の文化観光推進事業者		
共同申請者 ⑨ 文化観光推進 事業者	名称	一般社団法人京都府北部 地域連携都市圏振興社天 橋立地域本部（通称：天 橋立観光協会）	所在地	〒626-0001 宮津市文珠 314 番地の 2 天橋立ターミナル センター内
	代表者	本部長 井上 悦幸		
	役割	施行規則第 1 条第 2 項第 2 号の文化観光推進事業者		
共同申請者 ⑩ 文化観光推進 事業者	名称	一般社団法人京都府北部 地域連携都市圏振興社京 丹後地域本部（通称：京 丹後市観光公社）	所在地	〒629-3101 京丹後市網野町網野 367 アミティ丹後内
	代表者	本部長 田中 智子		
	役割	施行規則第 1 条第 2 項第 2 号の文化観光推進事業者		
共同申請者 ⑪ 文化観光推進 事業者	名称	一般社団法人京都府北部 地域連携都市圏振興社伊 根地域本部（通称：伊根 町観光協会）	所在地	〒626-0423 与謝郡伊根町字平田 491
	代表者	本部長 濱野 茂樹		
	役割	施行規則第 1 条第 2 項第 2 号の文化観光推進事業者		
共同申請者 ⑫ 文化観光推進 事業者	名称	一般社団法人京都府北部 地域連携都市圏振興社与 謝野地域本部（通称：与 謝野町観光協会）	所在地	〒629-2403 与謝郡与謝野町加悦 1060
	代表者	本部長 安達 幸三		
	役割	施行規則第 1 条第 2 項第 2 号の文化観光推進事業者		

(

2. 事務の実施体制

事業者名	主な連携内容
宮津市	丹後地域の文化観光の推進に関する関係者間の連携体制の整備、情報の収集、整理及び分析、事業の方針の策定並びに事業の実施状況の評価を行う。 ・地域の観光動向を把握・分析 ・各文化観光推進事業者が効果的に事業を実施することができるよう情報の共有・助言 ・相互に連携を強化し、観光客の周遊を促進
京丹後市	
伊根町	
与謝野町	
公益社団法人京都府観光連盟 (広域的な広報・ツアー造成支援)	
一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社(通称：海の京都DMO) (インバウンド観光促進、旅行商品の企画造成・広報)	

【施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者】

事業者名	主な連携内容
丹後海陸交通株式会社 ＊京都府北部の交通事業者（バス）	前者以外の当該地域における文化観光の推進に関する事業の企画及び実施を行う。
WILLER TRAINS 株式会社 ＊京都府北部の交通事業者（鉄道）	
一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社 天橋立地域本部	
一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社 京丹後地域本部	
一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社 伊根地域本部	
一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社 与謝野地域本部	

【参考】以下の連絡会議・協議会を活用して、事務局が各観光事業者の連絡調整を図る。

役割	会議及び参画機関等
天橋立文化観光周遊推進	連絡会議：宮津市・天橋立観光協会・府中観光会・丹後広域振興局（事務局 丹後天橋立ミュージアム）
丹後地域文化観光周遊推進	連絡会議：宮津市・京丹後市・伊根町・与謝野町・各市町観光協会・丹後海陸交通(株)・WILLER TRAINS(株)（事務局 丹後広域振興局）
日本遺産丹後ちりめん回廊文化観光推進	連絡調整会議：宮津市・与謝野町・伊根町・京丹後市・各市町観光協会等（事務局 海の京都DMO）

3. 基本的な方針

3-1. 現状分析

3-1-1. 主要な文化資源

以下の順に記述していく

【1】丹後地域の文化資源の概況と特色（4～7頁）

- 1 丹後地域
- 2 主な広域の文化資源
- 3 文化資源を結ぶストーリー

【2】拠点施設と周辺の状況（7～13頁）

- 1 京都府立丹後郷土資料館について
- 2 リニューアル再整備事業の概要
- 3 ミュージアムと一体の既存施設と史跡
- 4 交通アクセス
- 5 主要な文化資源
- 6 収蔵品の概要
- 7 周辺の文化・観光施設
- 8 関連するネットワーク

【1】丹後地域の文化資源の概況と特色

1 丹後地域

丹後地域（宮津市、京丹後市、伊根町及び与謝野町）は、京都府の北部に位置し、面積は約 845 k m²（府全体の約 18%）、丹後半島の東と西には、それぞれに砂嘴を持つ宮津湾と久美浜湾が広がっている。南には大江山連峰、中央には丹後山地が連なり、海岸線は変化に富み、天橋立、伊根湾、経ヶ岬、夕日ヶ浦など、多様で貴重な地質遺産が点在、丹後天橋立大江山国定公園と山陰海岸国立公園に指定されている。

四季の変化に富む日本海型気候により、晩秋から冬にかけては「うらにし」と呼ばれる季節風とそれに伴う時雨により天候が不安定となる。冬季には山間部で1 mを超す積雪が見られることもある。こうした気候がもたらす良質な水や適度な湿気が米作りをはじめとする農林水産業や織物業への恵みとなってきた。

丹後地域の構成市町

市町名	面積 (km ²)	人口 (人)
宮津市	172.69	16,758
京丹後市	501.44	50,860
伊根町	61.95	1,928
与謝野町	108.38	20,092
計2市2町	844.46	89,638

（注）面積：全国都道府県市区町村別面積調（令和7年） 人口：国勢調査（令和2年）

弥生・古墳時代は大陸との交流が活発で日本海三大古墳をはじめとする多数の墳墓、古墳が築造され、いわゆる「丹後王国」として「大和朝廷」に比肩する独自の繁栄を遂げていたと言われている。丹後国は、奈良時代の和銅6（713）年に丹波国から分国、丹後天橋立ミュージアムのある府中地域は、国府や国分寺が置かれ、政治や信仰の拠点としても重要な位置を占めた。また、天橋立は多くの都びとが訪れ、単なる景勝地を超えて都びとのあこがれの地として多彩な文化を花開かせた。戦国時代から安土桃山時代、守護大名一色氏から織豊期の細川氏の支配を経て、江戸時代に宮津藩、峰山藩、田辺藩（現在の舞鶴市）の三藩に分割され、中期以降には、幕府の天領として久美浜代官所が置かれた。これらの歴史を伝える文化資源が地域で継承されてきた景観や生活文化とともに残る地域である。

2 主な広域の文化資源

（1）宮津天橋立の重要文化的景観（国選定）

天橋立は、府中地区の籠神社・成相寺、文珠地区の智恩寺などの社寺と一体となって、多くの参詣者を集めてきた。平安時代から庭園や絵画のモデル、文学作品の舞台となるなど「名所」の特徴を備え、江戸時代には日本三景の一つと位置づけられた。

近代以降、公園化と名勝指定に伴って整備が進められ、文珠地区の智恩寺の門前には、木造三階建の旅館が建ち並び、駅前や門前に土産屋街が形成された。

府中地区では、傘松公園の整備やケーブルカーの敷設が行われ、籠神社の門前を中心に、土産物店が展開し、観光地へと生まれ変わる。このように、天橋立を中心とした府中、文珠地区には、古代・中世から近代にいたる参詣から近代観光への変遷を重層的に物語る景観が展開し、流通・往来に関する景観

地として評価されている



(2) 特別名勝天橋立（天橋立公園：京都府管理）

天橋立は都市公園でもあり、昭和39年から京都府で管理を行い、府民と協働しながら維持管理及び松の保全対策などに取り組んでいる。

白砂青松と呼べる松林を名木とともに保全していくため、地面表層の草本と腐植土の除去、適切な密度の間伐を行い、ランドマーク木となるマツを地域全体の中で継承していくための命名木の診断や将来の名木を育てる事業が進められている。

また、天橋立が漂砂の減少により
痩せ細ったことから、砂洲周辺の船
だまりに堆積した砂を浚渫し、浜の
付け根に投入する天橋立サンドバイ
パス工法（自然の波の力を利用して
天橋立の砂浜を復元させる）を昭和 61 年から実施している。



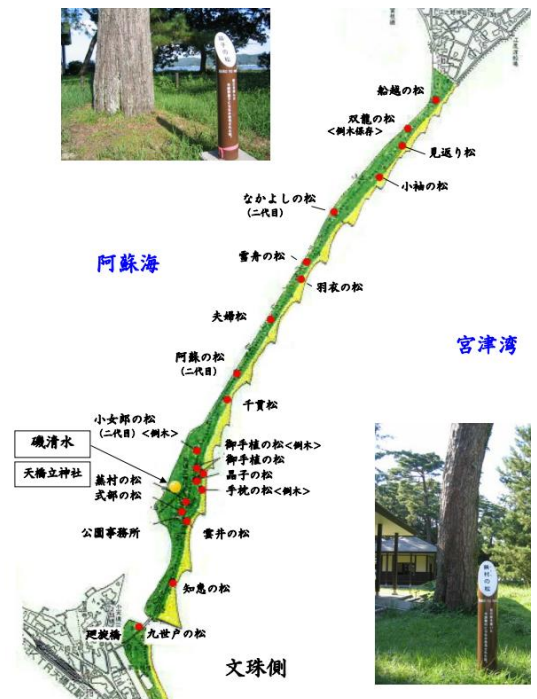
昭和60年(1985)ごろの天橋立

(3) 丹後天橋立大江山国定公園(平成19年8月3日指定) 19,023ha

京都府北部の丹後地域には、日本三景天橋立をはじめ、丹後王国、鬼伝説大江山など、世界に誇りうる素晴らしい自然環境や、歴史・文化に彩られた景観が数多く残る。棚田や茅葺き民家など長年にわたる人と自然によって形成された里山景観が評価され、指定された。丹後半島海岸地区の「海岸と美しい海」、半島中央の世屋高原地区の「高原と多様な自然」とさらに南には大江山連峰地区があり、変化に富んだ表情豊かな公園。



天橋立公園から丹後天橋立ミュージアム・史跡国分寺跡を望む。



【松】天橋立には 6,700 本以上の松があり、その中には特定の特徴や形状から名前が付けられた「命名松」が存在。これらの松は、訪れる人々にとっての楽しみの一つとなっている。

船越の松（2 世）：付近で砂洲越しに内海と外海の船を移動させたことから命名
夫婦松：二本の松が仲良く寄り添う姿。
千貫松：その大きさから名付けられ、地域の伝説や文化に深く根ざす。
式部の松：平安時代の歌人和泉式部に例えられた。
知恵の松：「三人寄れば文殊の智慧」にちなむ。

（4）山陰海岸国立公園（昭和 38 年 7 月 15 日指定）

9,006ha（内、京都府域 1,266ha）

山陰海岸国立公園は、奥丹後半島基部の網野海岸から鳥取砂丘まで東西約 75km に及ぶ海岸線及び海域を中心とする公園であり、陸と海とが一体となった変化に富む海岸景観が特色となっている。

（5）山陰海岸ユネスコ世界ジオパーク

（平成 22 年 10 月世界ジオパーク認定）245,844ha

山陰海岸ジオパークは、京都府（京丹後市）、兵庫県（豊岡市・香美町・新温泉町）、鳥取県（岩美町・鳥取市）にまたがる広大なエリアを有しており、山陰海岸国立公園を中心に、京丹後市の東端から鳥取市の西端まで、東西約 120km、面積は 2458.44 km²で、東京都よりひとまわり大きい広さになる。日本海形成から現在に至る様々な地質が存在し、それらを背景とした生き物や人々の暮らし、文化・歴史に触れることができる地域である。



（6）重要伝統的建造物群保存地区

①伊根町伊根浦重要伝統的建造物群保存地区

約 310.2 ヘクタール（東西に約 2,650m、南北に約 1,700m）

建造物等の数 主屋 133、舟屋 113、土蔵 130、その他 64、工作物 5、環境物件 15 計 460 件江戸時代末期から昭和初期に建てられた伊根湾沿いに連続して建つ舟屋及び主屋、蔵、寺社などの伝統的建造物を残す漁村であり、青島と伊根湾およびこれらを囲む魚付林などの周辺の環境と一体となって歴史的風致を今日に良く伝える。

②与謝野町加悦重要伝統的建造物群保存地区(ちりめん街道)

約 12 ヘクタール（街道筋は長さ 830m）

現在の主屋は 101 戸、江戸時代の建築 8 戸、明治大正期 39 戸、昭和戦前期 19 戸。かつての地域社会の中であって常に中心的な商業地として、そして丹後縮緬に代表される絹織物の生産地としての役割を担ってきた。平入り切妻造りの町家が主流を占める中に、前庭や門を有する大規模な屋敷型住居もみられ、近代洋風建築やちりめん工場も散見される。



3 文化資源を結ぶストーリー

丹後各地の文化資源をつなぐ日本遺産のストーリーが3件認定されている。また、1980年代に歴史学者により提唱された学説「丹後王国論」は、地域史を語る上で大きな影響を与えてきた。

- ①日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」(平成29年4月28日認定)
- ②日本遺産「1300年つづく日本の終活の旅～西国三十三所観音巡礼～」(令和元年5月20日認定)
- ③日本遺産「300年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊」(平成29年4月28日認定)
- ④「丹後王国論」(門脇禎二氏により提唱された古代史の学説) 大和政権が確立される以前の弥生時代から古墳時代にかけて、京丹後市の峰山盆地を中心として、野田川・竹野川・川上谷川各流域を含めた地域に地域国家「丹後王国(タニハ王国)」が存在していたとされる。

【2】拠点施設と周辺の状況

1 京都府立丹後郷土資料館について(宮津市国分小字天王山 611-1)

- ・昭和45年10月、丹後地域の歴史や考古、民俗分野における調査研究と収集保存、展示普及を行う施設として開館。
- ・日本三景天橋立から北に直線距離で1.6km、京都丹後鉄道天橋立駅から国道沿いに8.4km、阿蘇海沿岸から0.5kmの天橋立の全てを一望するところに位置する登録博物館。
- ・隣接する「国史跡丹後国分寺跡」「京都府指定有形文化財旧永島家住宅」と一体的な構成をしている(敷地面積22,532㎡うち国史跡面積11,959㎡) 別途山林等4,677㎡)。
- ・国宝雪舟筆天橋立図(室町時代)に描かれた宮津市の「府中」エリアに位置する。

国分寺(丹後天橋立ミュージアム) 成相寺



2 リニューアル再整備事業の概要

丹後の新たな「歴史×文化×交流」の拠点へ

- ・令和5年12月、丹後地域の歴史・文化の探訪と、観光の拠点となるための新たな「ハブ・ミュージアム」を目指してリニューアルのための再整備事業を実施する方針を決定。
- ・同年より基本・実施設計を実施、令和7年1月から建設工事に着手(令和8年6月現在工事中)



外観イメージ(東南側)

(1) 再整備事業の概要

- ①〈施設整備〉本館は存置し、リノベーション
○歴史と重厚感ある本館は、耐震補強の上、リノベーション

※本館（改修）：地下1階、地上2階建 延床面積 1,377 m²

② 〈施設整備〉新たな機能を備えた

○天橋立を真正面から望める本館正面に新館を新設

○外観は「丹後の未来が天橋立に向かって広がっていくさま」をイメージ

○国宝・重要文化財も随時公開可能な「公開承認施設」に対応

※新館（新設）：地下1階、地上3階建 延床面積 約 1,900 m²

○新たな視点から天橋立を一望し、魅力を再発見できるホールとカフェを整備

○アートや食などジャンルや世代を超えて楽しめるコンテンツで地域の賑わいを創出

○駐車場を増設

③ 〈推進体制〉府北部における文化観光・交流・創造の拠点となるための 活動方針、施設運営や維持管理の方針、その他事業の推進に必要な事項等を幅広い観点から検討し・助言を行うための アドバイザリー会議を設置し、事業を推進。

座長／ 佐々木丞平 丹後郷土資料館 名誉館長（参与兼任）

委員／ 前田 尚武 企画推進プロデューサー 展示企画、ブランディングデザイン

委員／ 橋本 麻里 企画推進プロデューサー 展示企画、学芸プロデュース

委員／ 森 美忠 海の京都DMO観光地域づくりマネージャーリーダー

（2）新たな出発を印象付ける、新愛称に改称

「丹後天橋立ミュージアム」（読み：たんごあまのはしだてミュージアム）

（3）新ロゴマークの決定

【ロゴコンセプト】 新館ホールから望む天橋立の景観をモチーフに、日本古来の流水紋を上下に配し、天橋立を取り巻く宮津湾と阿蘇海を象徴。地域文化の継承と人の往来が持続的に生まれる場としての姿勢を示すとともに、丹後の歴史・文化を核に、人や文化をつなぎ、内外へ開かれた交流拠点を目指すミュージアムの理念を体現しています。



TANGO AMANOHASHIDATE MUSEUM

丹後天橋立ミュージアム

（4）新博物館を目指すミッション

「府北部の文化の継承、新たな価値の創造を通じ「文化が活きる京都」を実現」

（5）新博物館のミッション

①京都府北部の文化資源の調査研究・保存の「核」となるミュージアム

②京都府北部の文化創造・コミュニティ創生の「核」となるミュージアム

③京都府北部のにぎわいの「核」となるミュージアム

（6）リニューアルオープン予定時期

令和9年秋を予定

（7）基本設計のコンセプト

「地域に受け継がれた『丹後の歴史』と『未来』との融合」（設計：株式会社 石本建築事務所）



リノベートした本館展示室
（本館1階）



特別展示室横廊下
（新館1階）



天橋立が一望できる多目的ホール
（新館2階）



外観イメージ（西南側）



エントランスでのロゴ表示イメージ

3 ミュージアムと一体の既存施設及び史跡

（1）旧永島家住宅（京都府指定有形文化財：1840(天保 11 年)築の古民家）

建築(延床)面積 165.11 ㎡、木造・茅葺・入母屋造、平成 7 年移築復元。天橋立を臨む高台にある。近世民家の完成型といわれる作りで、丹後地方の民家の特に貴重な建築例として、高く評価されている。同家で実際に使われた様々な農具・民具類も多数展示されている。その周囲の棚状に傾斜する旧耕作地は、紙漉きの原材料となる楮畑として、丹後天橋立ミュージアム（丹後郷土資料館）の紙漉きサークルにより、数十年にわたり維持・管理されている。冬が近づくころには、紙漉き作業がこの住宅で行われ、付近の小学生が自らの卒業証書で使う和紙を製作している。

【本事業の推進により実現を目指すイメージ例】

旧永島家住宅ゾーン	貴重な地域文化の体験エリア		
	旧永島家住宅利用	近代の丹後の生活文化を体感	
		火起こし・カマド炊飯等のワークショップを実施	
		音楽会・食文化体験・お茶会等のイベント	
		糸繰り・紙漉き・藤織等の体験・技術継承	
		天橋立の新たな視点場	

（2）丹後国分寺跡（国指定史跡）

昭和 5 年、史跡指定。天平 13 年（741）、聖武天皇の勅願により各国に一寺設けられた国分寺の 1 つ。重要文化財「丹後国分寺再興縁起」には、建武元年（1334）の金堂落慶の式典の様子が記載されている。雪舟筆「天橋立図」（室町時代）にも描かれており、令和 5 年の発掘調査において、中世再興期の建物の一部と考えられる遺構が検出された。

天文 11 年(1543)の兵火や江戸時代の天災などで荒廃、国分寺は北側の高台へ移転し、法灯を今に伝える。現在、塔、金堂、中門の礎石、基壇が残る（平成 26 年園路整備）

【本事業の推進により実現を目指すイメージ例】

丹後国分寺跡ゾーン	歴史・文化を学び・体感、イベントエリア		
	丹後国分寺跡	史跡公園（11,959 ㎡）として、奈良時代から中世に及ぶ国分寺の伽藍を体感	
		古代・中世の歴史景観を知る	
		グリーンスローモビリティ・サイクルロード、ウォークキングルートに併せた活用	
		ライトアップイベントなどのユニークベニュー利用	
		アートやフラワースケープによる魅力発信検討	

（3）文化財保管庫等

第 1 保管庫	建築(延床)面積	92.33 ㎡、鉄骨造(1 階建)、昭和 62 年竣工	
第 2 保管庫	建築(延床)面積	89.38 ㎡、鉄骨造(1 階建)、平成 26 年竣工	（通称 舟の蔵）
屋外トイレ	建築(延床)面積	17.64 ㎡、RC 造、平成 7 年竣工	

第2保管庫（舟の蔵）には、今はほとんどみられない丹後地方の漁業で重要な役割を果たした伝統的な木造船 10 艘を保管している。その代表例といえる「鱸太（トモブト）」は、水中で海藻や貝を採るのに便利のように、舟が左右に揺れるように造られている。



（４）「天平観」展望所

史跡「丹後国分寺跡」と天橋立を端から端まで真正面から間近に見ることができる眺望地点として、令和2年（2020）、丹後郷土資料館の開館 50 周年を記念してサイン整備が行われた。「天平観」の名称は、国分寺建立の詔が出された「天平」時代にちなんだ。



4 交通アクセス

- ・京都丹後鉄道宮豊線「天橋立駅」から丹海バス（経ヶ岬・蒲入・伊根方面行き）で「国分」下車徒歩5分（乗車時間は「天橋立駅」から23分）
- ・天橋立観光船のりば一の宮棧橋から徒歩25分（2km）、もしくは、丹海バス（上宮津方面行き）「天橋立元伊勢籠神社」から乗車、「国分」下車徒歩5分（乗車時間は4分）
- ・京都縦貫自動車道「与謝天橋立 IC」から車で10分「宮津天橋立 IC」から25分

5 主要な文化資源（国宝、重要文化財、その他）※収蔵品以外含む

指定	写 真	名 称	所有者	時 代
国 宝		あまべしけいず ・海部氏系図 ・丹後一宮、籠神社の宮司家、海部家に伝わった日本最古級の豎系図	個人 （宮津市）	平安
		あまのはしだてず ・雪舟筆「天橋立図」 ・雪舟の晩年の作品として有名 ・府中地区など天橋立周辺などを詳細に描く	国（京都国立博物館）	室町
		やしよくろうだいず ・与謝蕪村筆「夜色楼台図」 ・蕪村は丹後（宮津市・与謝野町）に3年間滞在、地元の文人等と交流した。この作品は晩年に京都で描かれたものとされ、丹後を第二の故郷とした、蕪村の代表作。	個人	江戸

重要文化財		こんどうそうそうりゅうかんとう た ち - 金銅装双龍環頭太刀 - たんごゆねざかにごうふん - 丹後湯舟坂二号墳出土の黄金の太刀 - 柄の先に4匹の龍が玉をくわえた文様が特徴	京丹後市	古墳
		ほうかくきくししんきょう - 方格規矩四神鏡 - 青龍三年（西暦235年）の銘があり、年号のある鏡では日本最古 - 日本で三枚しかない	京丹後市	古墳
		きんこ - 金鼓 - 丹後地域と朝鮮半島の交流を示す貴重な資料	智恩寺 (宮津市)	中国・元
		たんごこくぶんじさいこうえんぎ - 丹後国分寺再興縁起 - 丹後国分寺が南北朝時代に復興されたことを伝える唯一の資料	国分寺 (宮津市)	南北朝
		もくぞうへんがく - 木造扁額 - 平安時代の能書家、三蹟の一人、藤原佐理が書いたとされる籠神社の額	籠神社 (宮津市)	室町
		たんごこくふちゅうこのじんじやきょうつかしゆつどひん - 丹後国府中籠神社経塚出土品 - 年号や経典を埋めた目的が明記された貴重な出土品	籠神社 (宮津市)	平安
		もくぞうめがみざぞう - 木造女神坐像 - 平安時代の品格ある女神像	板列八幡神社 (与謝野町)	平安
		くしろ - ガラス釦 - 大風呂南一号墓出土 - 国内で4例目、唯一の完形品	与謝野町	弥生
民俗文化財 重要有形		たんご ぼうしよく - 丹後の紡織用具及び製品 - 丹後地域の特徴的なちりめん、藤織り、裂き織りなどの用具と製品 - ミュージアムの長年の収集成果	京都府	明治～昭和
民俗文化財 登録有形		ぎょうりょうようぐ - 丹後半島の漁撈用具 - 丹後地方の伝統的な漁撈の様相をよく示す資料で、日本海沿岸における漁撈の地域的特色や変遷を知るうえで重要	京都府	明治～昭和

【その他 暮らし・歴史の景観にかかわる文化資料（例）】

現代美術作品		天橋立図屏風 古い時代の感性や精神を受け継ぎつつ、そこに新たな感性を加える杉本博司氏の作品。天橋立の写真を屏風仕立てにしている。	個人	現代
--------	---	--	----	----

工芸品		染織作品 ・天橋立から日本海を望む意匠の訪問着、府認定無形文化財（染織） 保持者小倉淳史氏の作品	個人	現代
写真資料		絵葉書 ・傘松公園から股のぞきをする絵葉書、公園が開園した時の天橋立観光の姿が伝わる。	京都府	明治～昭和

6 収蔵品の概要 京都府北部の歴史・文化・自然を伝える約 11 万点以上の文化資源

【歴史・美術】

考古 10,230 点

縄文時代から江戸時代に及ぶ石器、玉類、土器・陶磁器類、瓦類、鉄・金銅製品、木製品、食物残滓等）

書跡・古文書・歴史資料 約 100,000 点

「海部氏系図」、「丹後国分寺再興縁起」、「後光厳天皇宸翰書状」、「明智光秀・細川忠興・藤孝」禁制、

「百鳥講文書」・「和田家文書」ほか中世文書、

「永島家文書」・「三上家文書」ほか近世・近代文書

「宮津船問屋文書」ほか北前船関係資料

「岩崎英精氏」・「中嶋利雄氏」ほか郷土史家関係資料

「旧水産講習所所蔵資料」、典籍、寺社棟札、ガラス乾板

絵画 600 点 屏風、掛軸など

彫刻・工芸品 20 点

仏像、石造狛犬、木造扁額、金銅製経筒等

【暮らし】民俗資料等

近世～近代の生活用具類 7,000 点

丹後半島の漁撈用具（〈国登録有形民俗文化財〉

漁労具、木造和船、船大工道具など）、

捕鯨関連資料（クジラモリ、クジラの骨など）、

丹後の紡織用具及び製品（〈重要有形民俗文化財〉

養蚕関係資料、丹後ちりめん関係資料、藤織・裂き織・刺し子関係資料

紙漉き関係資料、酒造り関係資料、鍛冶関係資料、農具類、祭礼・芸能関係資料等

昭和 30～50 年代の生活用具類 1000 点 わらじ、蓑、火鉢、雛人形・五月人形等

現代の記録 250 点 レコード、ビデオ、DVD 等

全資料の約 99%は収蔵庫に保管している。上記の文化資源の中でも、特に本事業においては丹後・天橋立の文化景観の歴史・暮らしに関わる魅力を引き出し発信する。

7 周辺の文化・観光施設

丹後天橋立ミュージアム（丹後郷土資料館）の周辺には、中世丹後国守護所が存在した以来の社寺や近代観光施設が重層的に展開する。

- ・籠神社 天照大神と豊受大神が伊勢神宮へ移る前に祀られていた「元伊勢」として知られる丹後国一の宮、国宝海部氏系図が伝来した非常に高い格式と神秘的な雰囲気を持つ。本殿は神明造、檜皮葺、京都府指定有形文化財、神門前の左右に立つ石造狛犬は重要文化財に指定されている。
- ・成相寺 西国三十三所第 28 番札所の古刹で、日本三景の天橋立を一望できる。山岳信仰の拠点として知られる静寂な寺院である。地蔵菩薩坐像と鉄湯船（重要文化財）が伝来、本堂と鐘楼は京都府指定有形文化財である。
- ・智恩寺 文殊堂（本堂）、多宝塔（重要文化財）や巨大な三門（京都府指定文化財）等の貴重な建造物が建ち並び、天橋立に隣接する。知恵の仏様である文殊菩薩（秘仏）を本尊とし、受験生や学業向上を願う参拝客で賑わう。参拝の智恵を授かる「智恵の餅」が名物

である。

- ・傘松公園 天橋立を北側から一望できる公園、股のぞき（股の間から天橋立をのぞき、景色が空に架かる橋のように見える絶景を楽しむ）発祥の地として知られ、ここから見える天橋立は「昇龍観」と呼ばれる。ケーブルカーやリフトでアクセスできる人気の観光地。
- ・天橋立ビューランド 文珠山頂にある、日本三景・天橋立を南側から一望できる展望遊園地。股のぞきで見る「飛龍観」が名物の観光スポット。
- ・溝尻の舟屋 阿蘇海沿岸（天橋立の対岸）に約 40 軒建ち並ぶ、古き良き漁村の風景を残す貴重な舟屋群。伊根の舟屋（重要伝統的建造物群）と異なり、より簡素で「舟や漁具のガレージ」という原初的な形式をよく残す（宮津・天橋立の重要文化的景観に選定）。江戸時代には「金樽イワシ」で知られた漁業拠点。
- ・妙立寺 室町時代の貴重な厨子（国指定重要文化財）を所蔵、雪舟の『天橋立図』の欠落部が描かれた墨書を持つなど、府中地区の中世の歴史を伝える貴重な文化財を伝える。

8 関連するネットワーク

これまで、京都府、市町村及び地域の方々と連携しつつ取り組んできており、文化芸術活動に取り組む団体・協議会と、個別にネットワークを構築してきた。

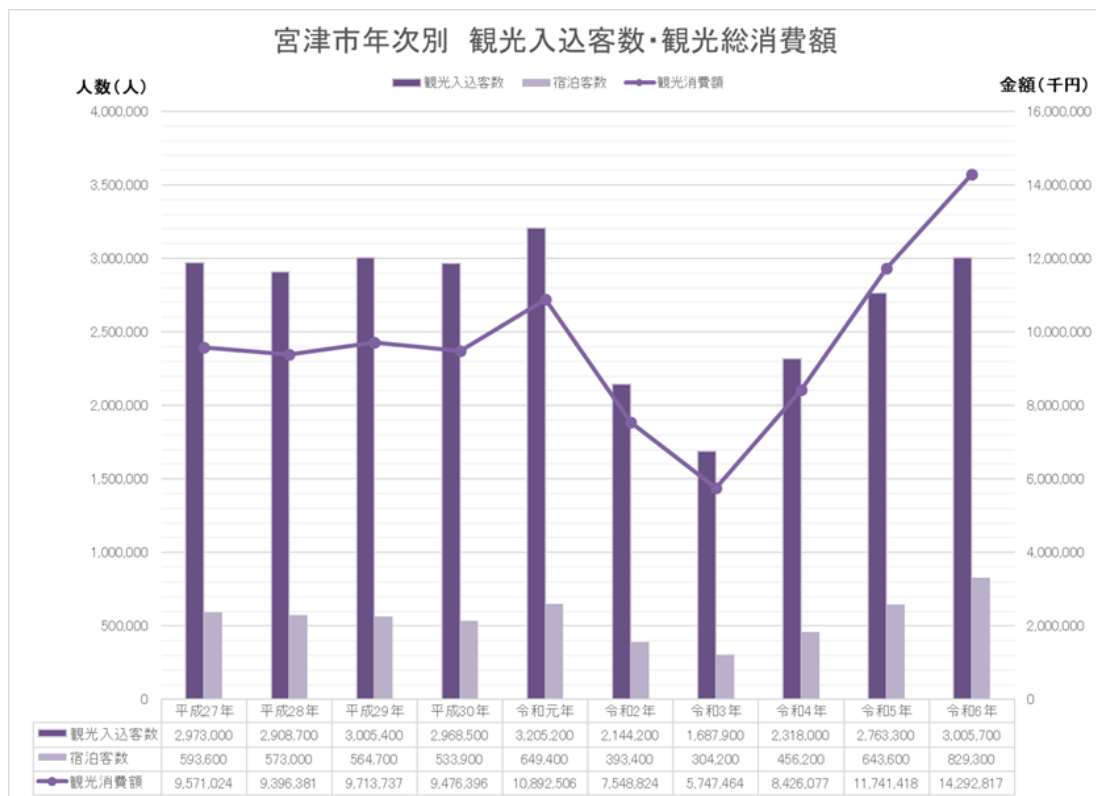
- ・丹後郷土資料館友の会 丹後天橋立ミュージアム（丹後郷土資料館）の事業の普及に寄与し、あわせて会員の教養の向上を図ることを目的とする。（会員数 約 150 名）・
- ・京都 Re—Search 実行委員会 地域の人々が主体となって芸術文化活動に関わる環境づくりを促進するとともに、地域の持つポテンシャル、魅力をアートの視点から引き出すことにより、交流人口の拡大、地域の活性化に寄与するための地域の取組を進める。（京都府及び市町村の関係機関が参画）
- ・両丹ミュージアム連絡協議会 京都府北部地域の公立の博物館等の相互連携を密にし、博物館活動の発展を図り、もって、京都府の文化向上に資することを目的とする。（参画施設 26 施設）
- ・京都府ミュージアムフォーラム 平成 29 年に創設した京都府内のミュージアム連携を目的としたネットワーク。ミュージアム連携をとおして、各館の有する課題の解決や地域の活性化に向けた取組を推進することを目指す。
- ・KYOTO 地域文化をつなぐミュージアムプロジェクト実行委員会 府内の博物館等が連携して地域文化の発信や次世代への継承を行うことを目的に、次世代と地域文化をつなぐミュージアムプロジェクト（愛称つなプロ）に取り組む。（府内の博物館施設等）

3-1-2. 来訪客の動向

1 京都府及び宮津市の観光客の状況

京都府の観光入込客数は新型コロナウイルス感染拡大の影響により大きく減少したが、全国旅行支援や京都府、各市町村、各DMO等における観光誘客促進の取組み、また、前年から続く円安の影響等により、国内外からの観光客が増加し、令和6年の京都府観光入込客数は8,425万人（対前年比112%）を記録し、コロナ前を上回る（令和元年比113%）過去最高の数値となった。

また、ミュージアムが立地し日本三景・天橋立を有する宮津市においても、コロナ禍により地域の基幹産業である観光業は大きな打撃を受けたが、地域の総力を挙げて観光回復に取り組んできたことにより徐々に回復し、令和6年の観光入込客数は300.6万人（対前年比108.8%）となった。とりわけ宿泊客数は82.9万人（対前年比128.9%）、観光消費額は142億9,282万円（対前年比121.7%）と過去最高の数値となった。



2 丹後天橋立ミュージアム（丹後郷土資料館）の来館者の状況

丹後天橋立ミュージアム（丹後郷土資料館）は、開館以来の年間平均来館者は10,600人、2014年度「海の京都」プロモーション開始後の年間平均来館者は12,700人となっており、そのほとんどが日本人である。

任意のアンケートの回答者統計によると、来館者の1/3以上が丹後地域の在住者（来館者の約60%が府内在住者、うち60%前後が丹後地域在住者）であり、「近隣在住者やコアな歴史・文化愛好家」、「子供の教育関係、学校教育」等、学習を目的とした来館者が中心で、観光客等広く多くの方が訪れるスポットとなり得ていない。

また開館50周年を超え、施設の老朽化・陳腐化が著しいことも観光客に魅力が訴求できない主因となっている。これまで駐車場の拡張、ミュージアム前のバス停設置、国道からミュージアムへ至る道路の入口への看板の設置等、観光客のアクセスの利便性を高める施策は折に触れ取ってきているが、情報発信が不足している。

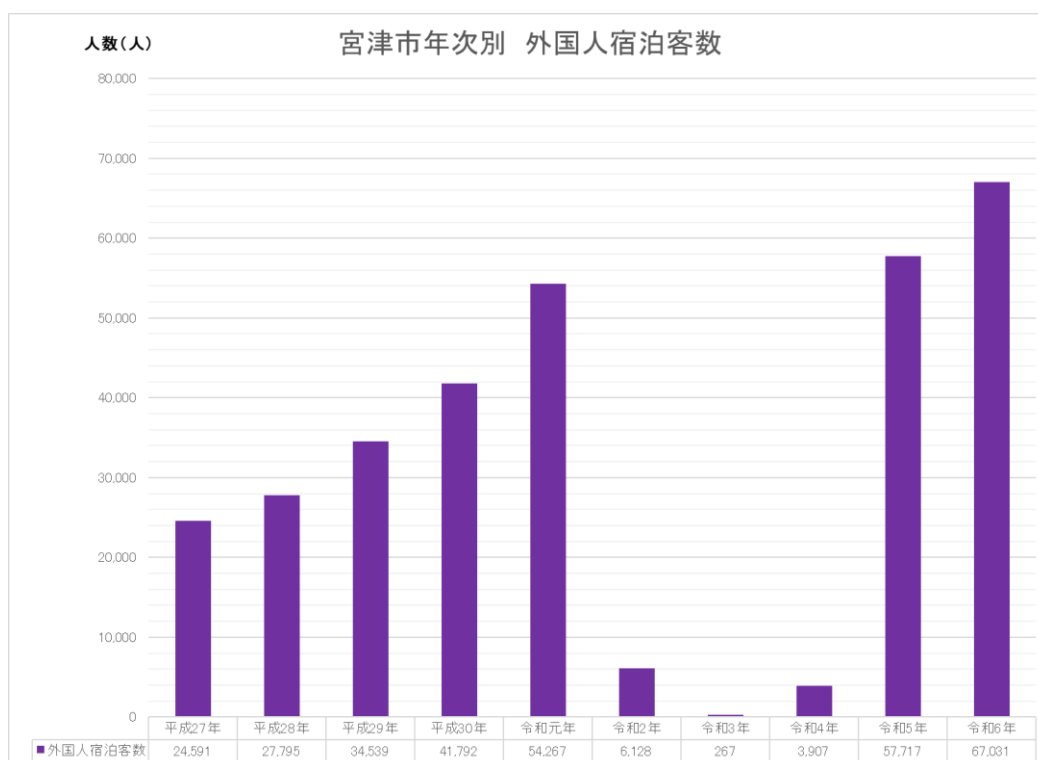
年度	入館者(人)	前年比	備考
H25 (2013)	13,214	127.6%	
H26 (2014)	11,223	84.9%	常設展示リニューアル（14年ぶり） 11月～3月休館（旧永島家住宅、史跡丹後国分寺跡等の整備）
H27 (2015)	15,003	133.7%	4月リフレッシュオープン 「海の京都YEAR」年間イベント開催（海の京都博（7/18～11/15）等）
H28 (2016)	12,647	84.3%	
H29 (2017)	13,292	105.1%	
H30 (2018)	12,256	92.2%	
R01 (2019)	11,970	97.7%	巡回展を舞鶴赤れんがパークで開催し14,854人が来館（入館者数には含まず）

天橋立ミュージアム 入館者数の推移

3 インバウンドの状況

令和元年に54,267人だった宮津市の外国人宿泊客は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により令和3年には267人にまで激減した。しかし、入国規制の緩和と世界的な回復の流れ、また、円安による訪日

意欲が高まったことなどによりインバウンドは急速に回復し、令和6年の宮津市の外国人宿泊数は67,031人（対前年比116.1%）とコロナ禍前の水準を上回る状況となっている。



令和6年の宮津市における外国人宿泊客の国・地域別の状況をみると、台湾が30,965人と最も多く全体の約46.2%を占めており、次いで香港が8,586人（12.8%）となっている。これに中国、韓国を加えた東アジア地域で67.6%と全体の3分の2以上を占めており、アジア圏、特に台湾からの来訪が回復を牽引していることがわかる。そのほか、欧米豪の地域が8,969人（13.4%）、東南アジア地域が7,978人（11.9%）となっており、令和7年に入っても東アジアからの来訪者が多い状況は続いているが、近年は欧米豪及び東南アジアからの来訪者の割合が増えつつある状況となっている。とりわけ、欧米豪を中心としたインバウンド旅行者は、「天橋立」や「伊根の舟屋」の写真を撮るだけの「景観の消費」から、それらを育んだ「地域の暮らし」や「精神性」に価値を見出すなど、その土地の「歴史・文化への深い没入」へと関心移している。これらインバウンドの多くが天橋立駅を起点に、路線バス等で伊根町へ向かい、その前後で駅周辺の文珠地区を訪れている。

4 ターゲットとする来訪者と目標

丹後天橋立ミュージアム（丹後郷土資料館）の大規模改築に伴う文化観光拠点計画の策定にあたり、当館が目指す「ハブ・ミュージアム」としての役割を最大限に発揮するため、以下の層を主要なターゲット来館者として設定する。

（1）天橋立観光に「体験」の要素を求める知的的好奇心旺盛な層

天橋立は国内外からの集客力がある観光地であるが、天橋立の眺望景観を目的とした通過型の日帰りの観光地となっており、周辺地域への周遊に課題がある。

当ミュージアムが天橋立を一望できる「天平観」に位置するという特性を最大限に活用しながら、丹後地域が育んできた歴史、文化、自然の魅力を、単に「見る」だけでなく、五感を通して「感じ」られる体験の機会を提供し、景観を深く鑑賞し、現地ならではの豊かな時間を過ごしたいと考える知的的好奇心旺盛な層を間口広く受け入れられよう、アプローチをしていく。

また、天橋立を望むロケーションを活かし、周辺の伊根の舟屋や丹後ちりめんの産地など、丹後地域全体を「海の京都」として体験できる「ハブ・ミュージアム」として機能させ、地域全体での滞在日数増加と消費拡大に貢献する。

（2）若者世代（ミレニアル世代・Z世代）へのアプローチ

若者世代はデジタルネイティブであり、SNSでの情報発信や共有を日常的に行い、ユニークで「映え

る」体験を重視する傾向にある。当館では、国宝を含む貴重な資料のデジタルアーカイブ化や、デジタルを活用したインタラクティブな展示を通じて、歴史や文化を楽しく学べる没入感のある体験を提供するとともに、単なる鑑賞に留まらず、丹後ちりめんや地域の食文化など、地域の伝統工芸や食に触れる体験型ワークショップを通じて、主体的な学びと SNS での発信につながる機会を創出する。

また、若者の博物館離れが課題とされる中で、彼らが「敷居が高い」と感じないように、ミュージアムカフェやショップの充実、また地域住民やクリエイターとの連携イベントなどを通じて、地域の一員として関われる「開かれたミュージアム」としての魅力を高める。

（３）インバウンド（訪日外国人観光客）へのアプローチ

宮津市における 2024 年の外国人宿泊者数は増加しており、インバウンドの潜在需要は非常に高い状況にある。多くの訪日外国人観光客、特に欧米豪からの観光客は、主要都市だけでなく、地方の「オーセンティック（本物）」な日本文化や歴史、自然体験を求めていることから、展示物や解説は、英語はもちろんのこと、主要な訪日外国人の言語に対応させ、日本の歴史や丹後の文化が持つ普遍的な価値を丁寧に伝える。また、丹後天橋立ミュージアムは、天橋立～伊根間のルート上に立地しており、これら訪問客の新たな立ち寄り先となりうるため、このルートの訪問客の取り込みにも取り組みたい。

3-1-3. 他の文化資源保存活用施設との比較

1 参考とした他の文化資源保存活用施設

（１）豊岡市立歴史博物館

丹後天橋立ミュージアム（府立丹後郷土資料館）同様、国分寺史跡に関する資料など地域史を扱う歴史系博物館であるとともに、北近畿有数の観光地である城崎温泉と近接し、周辺の観光地とセットで訪問されることが多い。歴史体験プログラムの充実など観光拠点地域との連携に取り組む施設として比較の対象とした。

① 概要

豊岡市立歴史博物館は、兵庫県豊岡市に位置する「登録博物館」である。元々は古代但馬地域の中心であった国府・国分寺に関する資料を展示する施設として開館したが、後に豊岡市全域の歴史を扱う施設へと改称された。縄文時代から近代までの豊岡市内の歴史を、出土品や歴史資料と共に紹介しており、特に「絵で見る歴史」をテーマにした常設展は、子どもから大人まで分かりやすく歴史を学べるよう工夫されている。建物自体も特徴的な設計を持つ。

② 参考となる取組み

絵で見る常設展 豊岡の歴史を「絵」で分かりやすく表現した常設展は、幅広い世代、特に子どもたちが歴史を身近に感じられるよう工夫が凝らされている。子どもから大人まで楽しめる観光スポットとして機能。

体験プログラムの充実 開館当初から土器づくりや勾玉づくりといった体験事業に力を入れており、夏休み期間中には多くの子どもたちが参加し、気軽に歴史に触れる機会を提供している。

市民参画の推進 「とよおか市民学芸員」を養成し、地域住民が歴史文化遺産の保護・活用に自発的に関わる土壌を育てている。また、「れきしまつり」などのイベントを通じて、若年層や子育て世代の歴史への関心を高めている。豊岡市内の他の博物館と連携して、但馬地域の歴史・文化を包括的に紹介する取組。

アウトリーチ活動 「ミュージアム出前授業」として、本物の出土資料を学校に持ち込み、教科書だけでは得られない記憶に残る授業を展開している。

③ 丹後天橋立ミュージアムとの比較

豊岡市立歴史博物館と丹後天橋立ミュージアムは、ともに地域史を扱う歴史系博物館という点で共通する。豊岡市立歴史博物館の取り組みは、丹後天橋立ミュージアムが目指す「学び」と「体験」を重視する知的好奇心旺盛な層、歴史や文化を楽しく学びたい若者世代、本地域ならではの歴史・文化体験を求めるインバウンド旅行者をターゲットとする上で大いに参考となる。

強み 豊岡市立歴史博物館は、絵を用いた分かりやすい展示や、開館当初から継続する体験プログラムの充実、地域住民を巻き込んだ活動により、子どもから大人まで楽しめる親しみやすい博物館としての地位を確立している。

学びの点 豊岡の事例から、子どもから大人まで楽しめる企画は、親しみやすい博物館に繋がる。

丹後天橋立ミュージアムにおいても、展示内容の「物語性」や「体験性」を高め、楽しめる企画・展示を充実させることにより、丹後天橋立ミュージアムが抱える「堅い」イメージの払拭と、天橋立から伊根へ向かう観光動線上に位置しているという施設立地の強みを生かす幅広い層への集客に繋がる可能性を示唆する。

（２）鳥取県立美術館

2025 年 3 月の開館から、特色ある催しや体験教室の開催などにより、当初目標の年間来館者 20 万人を半年足らずで達成した美術館であり、学ぶべきところが多い施設として比較の対象とした。

① 概要

鳥取県立美術館は、2025 年 3 月に鳥取県倉吉市に開館した新しい県立美術館である。鳥取県立博物館の美術部門を独立・拡充する形で整備されており、PFI 事業（民間資金活用事業）として設計、建設、運営、維持管理が進められている。世界的建築家である槇文彦氏が率いる槇総合計画事務所が設計を手掛け、3 層吹き抜けの「ひろま」を中心に、周辺の史跡大御堂廃寺跡歴史公園などと連続する開放的な空間が特徴である。コレクションは「鳥取県の美術」に加え、「国内外の優れた美術」や「同時代の美術の動向を示す作品」も収集方針としている。

② 参考となる取組み

コンセプト「OPENNESS！」と「未来を“つくる”美術館 芸術ファンに留まらず、多くの人々が楽しめる「開かれた美術館」を目指し、人々が集い、楽しみ、交流する拠点となることを掲げている。

「ひろま」を中心とした多機能空間 3 層吹き抜けの広大な「ひろま」は、展示やパフォーマンス、イベントなど多目的に利用できる空間として設計されており、来館者に多様な体験を提供している。

PFI 方式による運営 公立美術館の新設・運営において全国初の PFI 事業として、民間のノウハウや活力を積極的に導入し、魅力的な施設運営と効率的な維持管理を目指している。

美術館運営支援の仕組みづくり 館内芳名プレート掲出をはじめ、美術館ならではの特典の提供等、協賛メリットを具体的に提示しながら、企業協賛や賛助会員の募集、ふるさと納税の活用など、企業、個人からの支援の仕組みづくりを進め、施設運営資金の確保に努めている。

地域との連携と広報戦略 地域の文化施設や観光業界との連携を強化し、美術館を核としたカルチャーツーリズムのゲートウェイとしての機能を目指している。開館前からウェブサイトや SNS での情報発信にも力を入れている。

付帯施設の充実 誰でも気軽に利用できるカフェレストランやショップ、キッズスペース、展望テラスなどを整備し、来館者利便性と滞在時間延長を図っている。

③ 丹後天橋立ミュージアムとの比較

鳥取県立美術館はアートミュージアムである一方、丹後天橋立ミュージアムは歴史ミュージアムであるが、両者ともに「文化観光拠点」を目指す点で共通の目標を持つ。

強み 鳥取県立美術館は、その先進的な運営コンセプト「OPENNESS！」、多様な活動を可能にする空間設計、そして PFI 方式による民間活力の導入によって、既存の枠にとらわれない新しい美術館像を提示している。特に、来館者が自発的に利用したくなるような「居心地の良さ」と「アクティビティ」が重視されている。

学びの点 鳥取県立美術館の事例から、以下の点を強化する必要性が考えられる。

「ハブ・ミュージアム」コンセプトの具現化 天橋立という絶景を活かした「天平観」と資料館の空間を、単なる展示室ではなく、多目的イベントや交流、休憩ができる「ひろま」のような開放的で多機能なスペースとして再構築することにより、文化イベント、地域住民の集い、観光客の休憩場所など多様な用途に対応し、滞在時間を延ばす。

運営における民間活力の導入 カフェやショップの運営、一部プログラムの企画・実施において、民間のノウハウや創造性を積極的に取り入れることで、より魅力的なサービスを提供しながら収益性の向上を図るとともに、企業協賛や賛助会員の募集等、支援の仕組みづくりを進め、施設運営資金の確保に努める。

ターゲット層を意識したブランディングと情報発信 「OPENNESS！」のような明確なコンセプトを打ち出し、多言語での戦略的なデジタルマーケティングを展開することで、国内外の観光客、特に若者世代へのアプローチを強化する。

（１）天橋立の観光地としての課題

天橋立は松島、宮島と並ぶ「日本三景」の一つとして知名度が高く「一度は行ってみたい観光地」として評価されているが、天橋立の眺望景観を目的とした通過型の日帰り観光地となっており、「再訪意向」は高い調査結果となっている。その要因としては、「景観（モノ）」への過度な依存と、「体験（コト）」の絶対的な不足にあると考えられる。現在の観光形態は、展望所からの眺望という「視覚消費」に特化しており、旅行者が地域に深く入り込み、五感を通じて本地域を理解するプログラムが極めて限定的であり、接点が設けられていない。特に欧米豪客が重視する「地域文化の深掘り」や「ストーリーの追体験」といった高付加価値な知的な体験が不足しているため、初回の訪問で「消費しきった（＝もう見るものはない）」という感覚を与えている。

また調査では「宿泊すると満足度が上がる」結果となっており、再訪意欲の向上・顧客満足度の向上のためには、「食・体験・宿泊」の充実が喫緊の課題となっている。

（２）展示コンテンツの「体験性」と「物語性」の不足

現行の展示は、学術的な資料の羅列に留まり、来館者が丹後の歴史や文化を「自分ごと」として捉え、五感で体験できるような工夫が不足している。特に、若者世代やインバウンドが求める「没入感のある体験」や「物語」を伝える要素が弱いため、単なる知識の習得に留まり、感動や深い理解に繋がりにくい。また、現在、天平観展望所や丹後国分寺跡に看板は設置しているが、休憩や展望のためのベンチや東屋などがなく、ゆっくりくつろいでまわらう環境が整えられていない。館内外に地域の文化を紹介するためのガイドンスコーナーがない、旧永島家住宅において、暮らしの道具の見学やかまど体験などの学校向けの取組は実施してきたが、インバウンドや観光客向けに展開した企画はあまりできておらず、十分に活用できていない。

（３）多言語対応とデジタル発信の不足

急増するインバウンド観光客に対し、展示解説、サイン表示、ウェブサイト、SNS などにおける多言語対応が不十分となっている。情報へのアクセスが限られるため、インバウンド旅行者にとって敷居が高く感じられ、来館意欲を削ぐ要因となっている。また、デジタル技術を活用した魅力的なコンテンツ発信や、オンラインでの事前予約・チケット購入システムが未整備であることも、現代の観光客のニーズに応えきれない状況となっている。

（４）地域周遊のハブとしての機能不足と連携の弱さ

丹後地域には多種多様な文化資源が、広大なエリアに分散する形で所在している。また、天橋立という世界的観光地に極めて近接し、ミュージアムの敷地内から天橋立の全景を真正面に一望できる絶好のロケーション（視点場）にありながら、観光客に対する誘導案内が十分になされていない。このため、ミュージアムが丹後地域全体の文化観光の「ハブ」として十分に機能しきれておらず、他の観光スポット（伊根の舟屋、丹後ちりめん工房、地域の温泉地など）との有機的な連携が弱い状況にある。

さらに、天橋立から伊根へと向かう主要な観光動線上に位置しているにも関わらず、立ち寄りを促す『仕掛け』や、ミュージアムで得られる体験内容に関する情報提供が不足しており、多くの旅行者がその存在を十分に認識しないまま通過している。結果として、点在する文化資源を線で結ぶ周遊ルートの構築に至っておらず、地域全体の滞在時間の延長や消費拡大の機会を逸している。

（５）快適性・利便性を提供する付帯施設の不足

長時間の滞在を促し、来館者の満足度を高めるためのミュージアムカフェや、地域の特産品・オリジナルグッズを取り扱うミュージアムショップが充実しておらず、来館者の滞在時間が短くなりがちである。これにより、物販や飲食による収益機会を逸しているだけでなく、天橋立の景観という絶好のロケーションを最大限に活かしてきれていない点が課題となっている。

（６）「堅い」イメージによる集客の限界

丹後天橋立ミュージアムについては、一般的にイメージされる「堅苦しい」「学術的」といった博物館特有の心理的ハードルが存在する可能性に加え、そもそも観光客にとっての「立ち寄り施設」として全く認識されていないという根本的な課題がある。そうした中、歴史や考古学に関心のある層以外の、幅広い観光客（特にファミリー層やライトな観光客）を取り込みきれていない点が課題となっている。よ

り開放的で、誰もが気軽に立ち寄れる「文化体験施設」としてのイメージ転換が求められている。

3-3. 文化観光拠点施設としての機能強化に向けて取組を強化すべき事項及び基本的な方向性

(1) 基本的な方向性の軸となる文化観光計画のコンセプト

「風景が、生きた景観にかわる」 —歴史と文化が息づく丹後・天橋立の文化景観—
丹後特有の暮らしと歴史・伝統を知ることにより、丹後半島の周遊が圧倒的な充実感へかわる。

【美観を楽しむ】

多目的ホール

天橋立の絶景を「生きたコレクション」として眺める発信力のある空間を創造
絶景に浸るための空間デザインが、ミュージアム内外をシームレスにつながる情報をさりげなく提供

【暮らしの深部へ誘う】

本館ロビー

丹後の風土・気候を紹介する導入空間、タッチパネル等で多様な風景を能動的に体験

本館展示室1F

非日常の空間で鑑賞する環境を充実。歴史的な観点だけでなく、資料の「美しさ」「デザイン性」など、多様な価値に気づく仕掛けを充実

本館展示室2F

丹後特有の暮らしに浸ることができる快い空間

新館 展示室

地域ゆかりの国宝・重要文化財から考古資料、工芸、絵画、彫刻、アートなど多様な魅力を提供

展望カフェ

屋外テラスから特別な眺めに浸れる没入感、落ち着いた空間を提供する。特有の食文化を体感し、満喫感を向上

「エントランス・ショップ」

地域情報の紹介、思い出となる特有のミュージアムグッズや特産品を持ち帰り

「多目的室」

旧永島家住宅
丹後国分寺跡

ワークショップなど体験機会の提供、技術紹介、映像音声による情報発信、地域住民との交流会や地域イベントなどとの連携

- ・そこにあるのは、風景と暮らしをシームレスにつなぐストーリーとプログラム
- ・「SNS 映える絶景」＋「ミュージアムでの深い学び」＝旅の圧倒的な充実感の醸成

天橋立の絶景を「生きたコレクション」として眺める多目的ホールで美観を楽しみ、丹後天橋立で織り成される美しい景観にまつわるストーリーと多彩な文化・特色ある歴史の価値・魅力で、この地域を訪れる若者や家族連れ、インバウンド層などのターゲットを丹後特有の暮らしの深部へ誘う。

歴史的・芸術的価値を伝える文化資料、他にはない特色ある地域の文化を、創造豊かに鑑賞・体験することでその魅力的な風景に潜む多彩な奥深いストーリー・人のつながりを知ることにより、誰もが満ち足りた気持ちになる想いを来館者と共有するため、上記のコンセプトを設定する。

【幅広い世代をターゲットにした新たな観光動線を構築】

ミュージアム

旧永島家住宅・丹後国分寺跡 周遊

天橋立・府中（成相寺・籠神社）周遊

丹後半島周遊

美観・眺望景観に紐づく特有の暮らしを知ることは、かかわる人々の繋がりに気づき、他のすぐれた景観地への旅の魅力を想起させる。ミュージアム、天橋立・府中、丹後半島へと広がる観光周遊の人流は新たな観光動線を創造していく。

（２）事業の推進に当たって踏まえたい観点

「直観的な感動」をフックに、美観が楽しめるミュージアムから丹後特有の暮らしの深部へ誘う。ミュージアムの眺望空間と展示・体験による非日常の暮らしとの交差から、景観に溶け込む人々の重層的な暮らしと歴史の証左に気づき、楽しみ、充実した旅につながる。

地域で暮らす人々は、美しい風景に映る一瞬の姿だけではなく、そこで積み重ねられた多くの出来事や記憶を見ている。そのことに、気づき、見出された地域らしさを美観とともに楽しむ試みが、暮らしを文化観光資源ととらえる見方となる。

古くから日本文化に大きな影響を与えてきた「天橋立」、日本最大の絹織物産地として常に進化しつづける「丹後ちりめん」など、歴史上京都との深いつながりのある一方で、連綿と生きてきた独自の歴史・風土、それが育む創造性に光を当てながらその価値も発信していく。

事業の推進にあたっては、このコンセプトに基づく価値観を来館者へ効果的に伝えられるよう、関係者間で情報共有を徹底していく。

（３）取組強化事項

【取組強化事項１】展示コンテンツの強化

- ・現状認識と強化の必要性：従来のミュージアムの展示は、学術的価値は高いものの、一般観光客、特に若者世代やインバウンドにとっての「分かりやすさ」や「体験性」が不足している状況である。

《強化内容》

「物語体験型」常設展示の創出（本館展示室・ロビー）：国宝を含む貴重な収蔵品を核に、丹後地域の歴史的背景や人々の営みを「物語」として展開する。ストーリーに合わせて展示解説パネルを刷新して充実させるほか、プロジェクションマッピング、インタラクティブパネルなどの先端技術を駆使し、過去の風景や生活、文化を五感で追体験できる没入型コンテンツを導入する。例えば、古代丹後

の古墳文化や、中世・近世の海運・交易の様子、丹後ちりめん産業の発展などを、単なる年表やモノの展示ではなく、登場人物の視点や当時の生活音・匂いを再現する形で表現する。

企画展示の多様化と地域連携・強化（新館展示室・多目的室）：丹後の食文化（発酵、海の幸）、伝統芸能、自然の美しさなど、多角的なテーマを取り上げ、地域住民やクリエイターとのコラボレーションを積極的に行う。これにより、地域の人々が誇りを持てる場であると同時に、観光客には丹後の多面的な魅力を発見できる機会を提供する。

空間デザインと解説の工夫（新館多目的ホール・屋内外看板・旧永島家住宅）：天橋立の美観を意識した景観スポットを設置する。また、天橋立の成り立ちや美術作品などを解説する多言語対応の音声ガイドやタブレット端末を導入し、専門的な内容も簡潔かつ魅力的に解説することで、インバウンドの理解を深める。

【取組強化事項２】体験コンテンツの強化

・**現状認識と強化の必要性：**観光客が能動的に参加し、地域文化に深く触れる「体験」は、思い出に残りやすく、満足度の向上や、SNS などを通じた発信を促す強力な要素となっている。

《強化内容》

・「丹後らしい」高付加価値体験プログラムの常設・拡充

伝統工芸体験：多目的室・旧永島家住宅で、観光協会、職人、友の会が主体となり、丹後ちりめんを使った小物作り、丹後の和紙を使ったハガキ作りなど、地域の特産品を題材にした手軽に参加できるワークショップを常設する。

食文化体験：多目的室・旧永島家住宅で、観光事業者、食文化団体が主体となり、地元の食材を使った郷土料理教室、発酵食品（へしこ、地酒など）のテイastingと製造工程の一部体験など、地域の食文化を深く知るプログラムを提供する。

自然・景観体験との連携：ミュージアムでの学びに加えて、観光協会が主体となり、地域の観光事業者と連携を図りながら笠松公園・天橋立ビューランドの二大展望所や、伊根の舟屋巡り、天橋立からの電動モビリティ運行など、地域の自然や景観を活かした体験と組み合わせた、ミュージアムを拠点とした周遊パスやツアーを実施する。

ターゲット別プログラムの提供：多目的室・旧永島家住宅で、観光協会、地域団体、ガイドが主体となり、若者世代には、地域クリエイターとのコラボレーションによる限定ワークショップや、ナイトミュージアムと組み合わせた特別体験イベントを企画する。また、インバウンドには、茶道体験や座禅体験など、日本の精神性や美意識に触れるプログラムを提供する。

地域住民との交流機会の創出：多目的ホールや屋外で、文化団体、保存会が主体となり、定期的に地元の語り部による講演会や、地域伝統芸能の披露会などを開催し、観光客が地域の人々と直接交流できる場を提供する。

【取組強化事項３】景観・自然を活かしたミュージアムカフェの整備

・**現状認識と強化の必要性：**博物館・美術館におけるカフェは、来館者の滞在時間を延ばし、満足度を高める重要な施設であり、特に、天橋立という世界的景観を望む当館のロケーションは、その強みとなっている。

《強化内容》

絶景を活かしたカフェ空間の創出：天橋立を一望できる開放的なテラス席や、大きな窓を配したカフェ空間を整備する。訪れる人々が景色を楽しみながら休憩できるだけでなく、その風景が SNS で発信されることで、新たな集客要素に繋げる。

丹後産食材を活用したメニュー開発：地元の新鮮な海の幸、山の幸、米、お茶、地酒など、丹後地域ならではの食材をふんだんに使用したオリジナルメニュー（軽食、スイーツ、ドリンク）を開発・提供し、飲食を通じて地域の魅力を発信し、地元経済にも貢献する。

ミュージアムショップとの連携と滞在時間の延伸：カフェと隣接して、丹後ちりめん製品、地酒、工芸品など、地域性の高いお土産品を揃えたミュージアムショップを配置し、来館者の館内での滞在時間の延伸と消費を促す。

多目的利用と地域交流の拠点化：営業時間外には、地域住民の交流の場や、イベントスペースとしても活用することで、地域に開かれた「サードプレイス」としての役割も担う。

【取組強化事項４】インバウンドを含めた情報発信力・サービスの強化

- ・現状認識と強化の必要性：丹後地域へのインバウンドが増加傾向にある中で、情報提供の多言語化、デジタル化、そして来館者のニーズに合わせたサービス体制の構築をすすめる。

《強化内容》

- ・戦略的デジタルマーケティングの展開

多言語 SNS 運用：Instagram、TikTok、YouTube など、ターゲット層が利用する SNS で、魅力的な写真や動画コンテンツを多言語で継続的に発信する。

機能的な多言語ウェブサイトの構築：オンラインチケット購入、イベント予約、周辺観光情報との連携、交通アクセス案内（二次交通含む）など、来館者がスムーズに情報を得て行動できるウェブサイトを整備する。

グローバルな連携強化：海外の旅行会社、オンライン旅行代理店（OTA）との連携を強化し、当館を組み込んだ旅行商品の造成を促すとともに、国際観光見本市への積極的な参加や、海外メディアへの PR を検討する。

ホスピタリティと多言語対応：来館者対応にあたるスタッフの多言語対応能力向上（特に英語、中国語）のための研修を継続的に実施するとともに、館内の案内表示やサインも多言語化し、あらゆる来館者が快適に過ごせるユニバーサルデザインを徹底する。

3-4. 地域における文化観光の推進への貢献

本計画の実施により、丹後天橋立ミュージアムがハブ・ミュージアムとしての機能を強化し、丹後地域全体の文化観光推進に貢献することで、来訪者の増加、地域における連携事業者の拡大と収益化、ひいては地域におけるブランド力の向上を目指す。

（１）地域への来訪者の増加

丹後天橋立ミュージアムでの文化観光を基軸とした事業実施により、天橋立～伊根というゴールデンルートとは異なる新たな観光客動線を形成するとともに、丹後天橋立ミュージアムをゲートウェイに丹後半島全体に観光客が周遊するきっかけを作り、インバウンドを含む国内外からの観光客の増加、滞在時間の延長、観光消費額の向上に寄与する。また、魅力的な鑑賞体験や多様な文化景観コンテンツの提供により、来訪者の満足度の向上、更には、地域へのリピーター創出につながる。

（２）地域における連携事業者の拡大と収益化

文化観光拠点計画を軸にした新しい丹後天橋立ミュージアムの目指す姿である「丹後の歴史・文化の探訪と観光の拠点」としての取り組みや、文化資源の魅力向上の取り組みが、地域住民、企業、教育機関、研究機関等の関係内外に共有され、文化景観に関わる民間事業者の参画が増加する。

これらの事業への参画を通じて、地域全体の収益化が図られるとともに、文化観光施設（旧尾藤家住宅、古墳公園はにわ資料館、江山文庫、丹後ちりめん歴史館、古代の里資料館、旧稲葉家住宅、森の中の家安野光雅館ほか）や道の駅（丹後王国ブルワリー、舟屋の里、シルクのまちかや等）との連携を深めることで、地域全体の文化観光にかかわる周遊ツアーの深化と魅力の増加につながる。

（３）地域におけるブランド力の向上

丹後地域の文化観光資源のさらなる魅力・価値が、観光客に加えて地域の方々にも幅広く浸透することで、地域への愛着や誇りの生成につながる。また、「海の京都」としてのブランド力向上に貢献するとともに、文化資源を活用するという持続的な意識が地域に広がることで、地域全体の活性化が図られる。

3-5. 文化の振興を起点とした、観光の振興、地域の活性化の好循環の創出

丹後天橋立ミュージアムは、文化の振興を起点として、観光の振興、ひいては地域経済の活性化につながる好循環を創出する中心的な役割を担う。以下の好循環を生み出すためのスキームの検討、調整を進め、本計画期間中に持続的なスキームの確立を目指す。

（１）丹後天橋立ミュージアムにおける文化・観光・経済の好循環の創出

本計画の取組の実施により、地域の魅力を発信する多彩な展覧会や多様な体験コンテンツが創出され、丹後天橋立ミュージアムへの来館者が増加する。これにより、一般財源の増収、ショップやミュージアムカフェの売上増加など、収益向上が期待できる。これらの観光消費による収入を、体験コンテンツの磨き上げや新たな企画展示などの取組に再投資することで、来館者の満足度向上を図り、ミュージアムの持続的な運営と事業の実施を担保する。あわせて、収入の手段として、ふるさと納税、協賛金、寄付金、クラウドファンディング等については、丹後天橋立ミュージアムや丹後の歴史・文化に対する理解促進と合わせ、その導入や拡大に向けた検討を進める。行政予算以外の、丹後天橋立ミュージアムにおける収入手段の多角化により、より安定的、持続的なミュージアム運営につなげるとともに、丹後地域全体の観光振興、地域活性化へとつながる好循環を生み出す。

（２）丹後地域における観光振興、地域活性化の好循環の創出

丹後天橋立ミュージアムへの来館や体験を契機に、丹後地域全体への周遊を促進させることにより、地域の文化資源の価値・魅力を知り、その特色である文化景観に惹かれる観光客が増加する。

これにより、文化観光施設への周遊や地域の飲食・宿泊施設、物販の店などへの立ち寄りが増加し、地域における観光客の滞在時間の増加と、さらなる地元での観光消費額の増加が期待できる。

このような地域の観光消費の増加は、地域経済を潤すとともに、新たな文化事業や観光関連サービスの創出につながり、ひいては丹後地域全体の活性化へとつながる好循環を生み出す。

4. 目標

目標①：入館者数（課題2関連、取組強化事項1・2関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

・新規オープン効果と段階的成長 令和9年3月のリニューアルオープンによる新規性やメディア露出、重点的な広報活動により、実質的な開館初年度（令和9年度）は大幅な入館者数の増加を見込む。その後は、施設の魅力向上、企画展の充実、周辺観光施設との連携強化、リピーターの創出により、緩やかながらも持続的な増加を目指す。

・地域特性と連携効果

「海の京都」観光ルートや丹後地域の豊かな文化資源（丹後ちりめん、古墳文化など）との連携による周遊促進効果や、地域住民の利用促進も入館者数に寄与すると考える。

・先進施設等との比較

同規模の先進文化観光拠点施設における入館者数目標や、周辺の観光集客施設の入込状況及び周辺地域の文化施設の傾向を参考に、丹後天橋立ミュージアム地域特性や規模を考慮して目標値を設定する。

令和9年度は10月開館を予定しているため、目標値は、初年度目標（50,000人想定）の半年分（1／2）を計上している、また実績値は、令和6年7月以降現在まで休館しており、令和5年度は集客数のある特別展を実施しておらず、令和2～4年度はコロナによる著しい実績値の減少が認められたため、これら年度以前の令和元年・平成30年度の実績値を記載した。計画開始から10年目となるR17年度にはR9年度半年分の約4倍（年間換算では2倍）にあたる100,000人到達を目指す。

年度	実績		目標				
	H30年度	R元年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度
目標値	12,256	11,970	—	25,000	45,000	47,000	50,000
事業1－① ミュージアムの展示解説充実のための整備事業（本館展示室・ロビー）			展示パネル・什器等設計、展示空間デザイン	展示パネル・什器等設計・製作、展示空間デザイン制作	展示パネル・什器等製作	展示パネル・什器等製作	展示パネル・什器等製作
事業1－② 丹後の魅力を発信する企画・コンテンツ制作事業（新館展示室・多目的室）			展示デザイン、展示プランナーによる企画検討等	企画展示、ハンズオン企画の制作実施	企画展示、ハンズオン企画の制作実施	企画展示、ハンズオン企画の制作実施	企画展示、ハンズオン企画の制作実施
事業1－③ 天橋立鳥瞰ホール利用促進事業（新館多目的ホール）			空間デザイン・什器の設計施工	ホール什器制作	ホール什器製作	ホール什器製作	—

事業2―① 丹後の昭和時代風景・習俗・祭礼記録のデジタル化とコンテンツ造成事業			—	デジタルアーカイブ撮影公開	デジタルアーカイブ撮影公開	デジタルアーカイブ撮影公開	デジタルアーカイブ撮影公開・映像・展示パネルパンフレット制作
事業5―① 認知度向上のための広報発信事業			プロモーション事業・ファムトリップ	プロモーション事業、DMOとの協業による情報発信	プロモーション事業	プロモーション事業	プロモーション事業
事業5―② ホームページの拡充及びSNSを活用した広報強化事業			WEBサイト開設・情報発信	WEBサイト更新・拡充情報発信	WEBサイト更新・拡充情報発信	WEBサイト更新・拡充情報発信	WEBサイト更新・拡充情報発信
事業6―② ミュージアム周辺のサイン整備（看板整備等）			動線上のサイン新設・既存改修（デザイン設計）	動線上のサイン新設・既存改修（デザイン設計施工）	動線上のサイン新設・既存改修（デザイン設計施工）	動線上のサイン新設・既存改修（デザイン設計施工）	—

目標②：満足度（課題1・4・5関連、取組強化事項2・4関連） （目標値の設定の考え方及び把握方法）							
丹後天橋立ミュージアムの満足度、目標値設定の考え方、高水準の維持、丹後天橋立ミュージアムが「丹後の歴史・文化の探訪と観光の拠点」として機能するために、展示内容の充実度、施設設備の快適性、スタッフのホスピタリティなど、来館者体験全体の質の高さを重視し、常に高い満足度を目標とする。継続的な改善サイクル、アンケート結果を定期的に分析し、来館者の声やニーズを運営・展示改善に継続的に反映させることで、満足度のさらなる向上と維持に努める。なお、比較実績としては、これまでの丹後天橋立ミュージアムへの満足度の評価の実績値はないため、全国観光圏満足度調査（天橋立地区）（2025年度）における、日本人及び外国人の、7段階評価による最高位の「大変満足」の割合＝48％を踏まえた上で、文化観光拠点計画の先行事例による、拠点施設に対する来館者の満足度の目標値も参考に設定する。 ・評価項目：展示内容、解説の分かりやすさ、施設の清潔さ、スタッフの対応、再訪意向、他者への推奨意向などを総合的に評価する。 ・目標数値（年間）：・5段階評価で「非常に満足」の合計比率、計画期間最終年度満足度に60（％）を目指す。令和8年度-（データ収集開始準備期間）							
年度	実績		目標				
	H30年	R元年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度
目標値	—	—	—	45.00%	50.00%	55.00%	60.00%
事業2―②：リニューアルする展示室の解説映像製作事業			天橋立ミュージアム文化景観PR映像製作（秋～冬）	天橋立ミュージアム文化景観PR映像製作（春～夏）	映像製作「丹後」の工芸技術	映像製作「丹後」の伝統芸能	映像製作「丹後」の食文化

事業３－①：ミュージアム 周辺文化資源の活用促進事 業			旧永島家住宅施設・環 境整備	旧永島家住宅施設・環 境整備・案内サイン充 実	旧永島家住宅施設・環 境整備・天平観展望所 整備	旧永島家住宅施設・環 境整備	旧永島家住宅施設・環 境整備
事業３－②：チケット購入 等の利便性向上			外部サイト連携システ ム開発・周遊券等企画 開発	外部サイト連携システ ム開発・周遊券発行	外部サイト連携・周遊 券発行	外部サイト連携・周遊 券発行	外部サイト連携・周遊 券発行
事業４－①：カフェ食文化 メニューの企画開発			カフェメニュー企画・ 開発	カフェメニュー企画・ 開発	カフェメニュー企画・ 開発	カフェメニュー企画・ 開発	カフェメニュー企画・ 開発
事業４－②：グッズの企画 開発			ミュージアムグッズマ ーケティング企画・開 発	ミュージアムグッズマ ーケティング企画・開 発	ミュージアムグッズマ ーケティング企画・開 発	ミュージアムグッズマ ーケティング企画・開 発	ミュージアムグッズマ ーケティング企画・開 発
事業６－① 利便性向上の ための施設改修及び設備整 備事業			wifi 環境整備	トイレ洋式化・駐車場 整備・２次交通ポート (施工)	駐車場拡張整備	駐車場拡張整備	トイレ増設（検討）
事業６－④：古民家・旧永 島家住宅の環境整備事業			旧永島家住宅（屋根葺 替等）周辺整備（設 計・施工）及び体験会	旧永島家住宅（屋根吹 替等）周辺整備（設 計・施工）及び体験会	旧永島家住宅環境整備 (施工)	バックヤード改修 (設計・仮設)	バックヤード改修（施 工）サイン更新
事業６－⑤：カフェ整備			設備備品準備	設備備品什器導入	設備備品更新導入	設備備品更新導入	設備備品更新導入
事業６－⑥：ショップ整備			設備備品準備整備	設備備品整備	設備備品整備	設備備品整備	設備備品整備

目標③：外国人入館者数（課題３関連、取組強化事項１・２・３関連）

（目標値設定の考え方及び把握方法） インバウンド戦略との連動、京都府全体のインバウンド誘致戦略と密接に連動し、多言語対応（解説、案内、ウェブサイト）、海外向けデジ
タルプロモーション、海外の旅行会社やメディアとの連携を強化することで、外国人観光客の誘致を積極的に行う。丹後文化の国際的訴求、丹後地域が持つ独自の歴史・文化
（例：丹後ちりめん、古代丹後王国の歴史、海の京都の景観）が、外国人観光客にとって魅力的なコンテンツとなるよう、その国際的な価値を効果的に訴求する。

全体の増加率との連動と比率向上、全体の入館者数増加と並行して、外国人入館者数の比率を段階的に高めることを目指す。先進施設・地域との比較、同規模の先進文化観光拠
点施設の外国人入館者数の目標値や、丹後地域の観光地におけるインバウンド比率を参考に、実現可能な目標値を設定する。当該エリアのインバウンド比率が約８％であることか
ら、目標①による各年度の丹後天橋立ミュージアムの目標入館者数に、８％をかけた数字で設定するものである。

なお、インバウンドの把握にあたっては、予約や券対応、アンケート等から計測する。

年度	実績		目標				
	H30年度	R元年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度
目標値	240人	240人	—	1,600人	3,600人	3,800人	4,000人
事業2-③：ミュージアムの文化資源案内解説板の設置及び多言語化事業			総合展示・現地案内板多言語化	総合展示・現地案内板設置	QRコードを使った多言語音声ガイド整備	ワークショップ	音声ガイド更新
事業6-④：リニューアルする展示室の開設映像機器整備事業			サイネージ整備 映像放映整備、タッチパネル式モニター整備	サイネージ整備 映像放映整備、タッチパネル式モニター整備	案内サイン整備・映像機器整備	案内サイン整備・映像機器整備	映像機器整備

目標④：体験コンテンツの参加者数（取組強化事項2関連）

（目標値設定の考え方及び把握方法）

ミュージアム（多目的ルーム等）や永島家住宅で提供する／される各種の体験コンテンツ（ミュージアム直営実施の他、民間事業者・団体実施のものも含む）については、質の高い体験コンテンツにより満足度の向上に寄与すると考えられる。

これらの理由により、体験コンテンツの参加者数を目標として設定することとし、ターゲット別のR12年度の目標値の合算により設定する。

① ファミリー層 長期休暇期間、土日祝中心、京都府、近隣府県中心

R12年度目標値：開催回数 年30回*1回当たり参加数20人=600人

② ①以外の国内FIT客

R12年度目標値：年300日*1日当たり参加数平均5人=1,500人

③ 海外FIT客

R12年度目標値：国内の約8%(100人)

④ ツアー客（国内外） ミュージアム等での体験コンテンツが組み込まれた旅行会社等のツアーによる参加者数

R12年度目標値：催行ツアー数年40本*1本当たり参加数20人=800人

これにより R12年度目標値3,000人とし、開館年のR9年度1,500人（途中開館により目標値としては750人）から年500人ずつ増加させる。

年度	実績	目標
----	----	----

	H31年 度	R元年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度
目標値	—	—	100人	750人	2,000人	2,500人	3,000人
事業1ー⑤：文化観光体験プログラムの開発実施事業			文化観光体験プログラム造成（ワークショップ、マルシェ等）	文化観光体験プログラム販売（ワークショップ、マルシェ等）、同造成（歴史・文化体験他）	文化観光体験プログラム販売（歴史・文化体験他）、同造成（バックヤードツアー他）	文化観光体験プログラム販売（バックヤードツアー他）、同造成（文化景観まち歩き他）	文化観光体験プログラム販売（文化景観まち歩き他）、
事業1ー⑥：早朝や夜間、休館日を活用した高付加価値プログラムの開発と実施			文化観光高付加価値プログラム造成（早朝・夜間特別体験他）	文化観光高付加価値プログラム販売（早朝・夜間特別体験他） 文化観光高付加価値プログラム造成（内容今後協議）	文化観光高付加価値プログラム造成、販売（内容今後協議）	文化観光高付加価値プログラム造成、販売（内容今後協議）	文化観光高付加価値プログラム造成、販売（内容今後協議）
事業1ー⑦ ミュージアムコーディネーター・ミュージアムガイドの養成			ガイド・コーディネーター育成（準備）	ガイド・コーディネーター育成（募集・研修）	ガイド・コーディネーター育成（募集・研修）多言語（英）ガイド育成	ガイド・コーディネーター育成（募集・研修）多言語（中）ガイド育成	ガイド・コーディネーター育成（募集・研修）多言語（仏）ガイド育成

5. 目標の達成状況の評価

丹後天橋立ミュージアムの文化観光拠点計画における各目標の達成状況については、事業の進捗状況と効果を客観的かつ定期的に評価し、その結果を事業の見直しや改善に反映させる「Plan-Do-Check-Action (PDCA) サイクル」を確立し、計画の実効性および持続的な発展を図る。

(1) 評価体制

評価主体: 文化資源保存活用施設の設置者である京都府が、施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者である宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町、公益社団法人京都府観光連盟、一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社(通称:海の京都DMO)と計画の評価を統括する。

以下の連絡会議・協議会を活用して、事務局が各観光事業者の連絡調整を図ることを検討する。

役割	会議及び参画機関等
天橋立文化観光周遊推進	連絡会議: 宮津市・天橋立観光協会・府中観光会・丹後広域振興局(事務局 丹後天橋立ミュージアム)
丹後地域文化観光周遊推進	連絡会議: 宮津市・京丹後市・伊根町・与謝野町・各市町観光協会・丹後海陸交通(株)・WILLER TRAINS(株)(事務局 丹後広域振興局)
日本遺産丹後ちりめん回廊文化観光推進	連絡調整会議: 宮津市・与謝野町・伊根町・京丹後市・各市町観光協会等(事務局 海の京都DMO)

(2) 評価項目と指標

計画に定めた以下の目標項目について、定量的な指標を用いて評価を行う。

(入館者数、アンケート調査に基づく満足度、外国人入館者数)

(3) 評価の方法

各年度評価: 年度ごとの目標達成状況を詳細に評価し、その達成度合いを数値で示す。目標達成状況に加え、事業活動によって生じた好影響・悪影響(波及効果、周辺地域への影響など)についても定性的に評価する。

「丹後天橋立ミュージアム文化観光拠点計画推進協議会(仮称)」にて評価報告会を実施し、外部からの意見や助言を求める。必要に応じて、翌年度以降の事業計画や予算配分を調整する。

最終評価: 計画期間全体の目標達成状況を総合的に評価する。

計画策定時の目標と実績を比較し、達成度合いと要因を詳細に分析する。

本計画が地域にもたらした影響(経済効果、地域活性化、ブランド力向上など)

について多角的に検証する。最終評価報告書を作成し、公表する。

(4) 評価結果の活用とフィードバック

事業改善への反映: 評価結果は、展示内容の企画、広報戦略の見直し、施設運営の改善、人材育成プログラムの強化など、具体的な事業活動に迅速に反映させる。

計画の見直し: 目標達成が困難な場合や、社会情勢の変化、新たなニーズの発生などがあった場合には、目標値や事業内容の妥当性を再検討し、計画の改訂を行う。

先進事例との比較: 定期的に他施設や先進事例の評価指標や達成状況と比較検討し、丹後天橋立ミュージアムの運営・計画の改善に資する知見を取り入れる。

6. 文化資源保存活用施設

6-1. 主要な文化資源についての解説・紹介の状況

6-1-1. 現状の取組

文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）

（1）リニューアル前の常設展示

- ・「海国・丹後を巡る」テーマで写真パネルや出土品で紹介（キャプション資料名のみ英語表記）。

歴史

弥生時代の大陸との交易、日本海三大古墳、国府や国分寺が設置された天橋立周辺の様子（重要文化財（レプリカ）：考古資料等）

雪舟筆天橋立図・成相寺参詣曼荼羅（実物大パネル）

浦島伝説、羽衣伝説、鬼退治伝説等についてパネルや絵本で紹介

暮らし

伊根の鯨漁や北前船関係の沿岸部の暮らし（古文書）

丹後地域の漁業や織物、紙漉き、地域の祭礼・芸能（実物民俗資料：船・漁撈具）

体験・ビデオコーナー：竿ばかりや土器片、地域の祭礼・芸能・昔話（映像・音声データ）

旧永島家住宅：高度経済成長期に失われていった民具（昔の暮らし）を常設展示

保存と伝承の取組：藤織り保存会、紙漉きサークル、古文書ボランティア

情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）

（1）丹後地域の祭り・行事を記録する映像を公開

本館オーディオブースにおいて、これまでの数十年間、丹後地域の無形民俗文化財の調査を通じて、記録保存してきた貴重な祭り・行事の動画（ビデオやDVD）を公開。現在はもう行われなくなった地域の珍しい映像から、地域の歴史・文化を学ぶことができる。

外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）

（1）展示解説・HPの多言語化

常設展示において、資料名については英語表記をしていたが、解説文やパネルについては多言語化できていなかった。また、ホームページのトップページのみ英語表記を実施。

（2）一部パンフレットの多言語化

旧永島家住宅の解説パンフレットやこれまで実施した調査の内容を普及啓発する多言語パンフレット（英語・簡体字）を作成して配布。

6-1-2. 本計画における取組

文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）

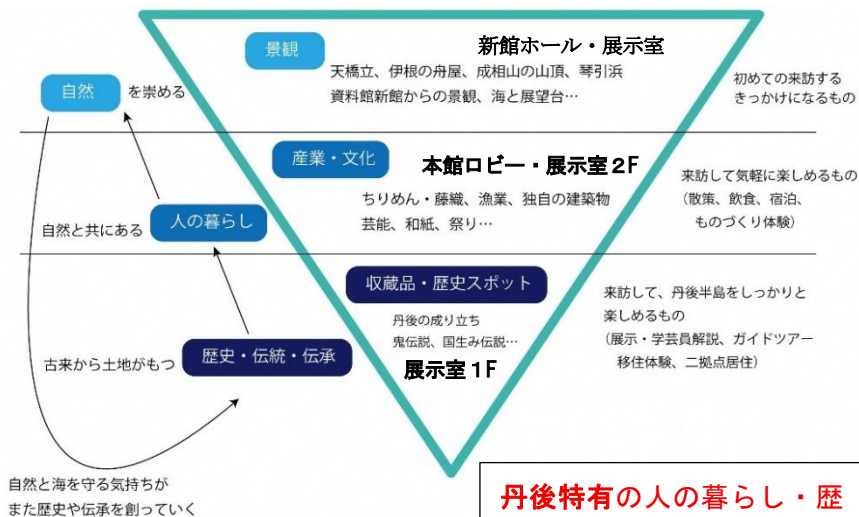
（リニューアル展示計画）

- ・文化資源の魅力に関する情報を、本館の常設展示、新館の企画展示において、分かりやすい解説へのリニューアルを行っていく予定。
- ・丹後半島や天橋立など文化景観やその歴史の魅力を発信し、周遊観光につなげるため、地域の地形環境を背景とした景観・暮らし・歴史、アートやアクティビティなど多様なテーマを設定した展覧会を開催、関連のハンズオンコンテンツを制作・拡充する。
- ・本館の総合展示（常設展示）は、ストーリー性のある展示にして来館者の地域の文化資源への理解を促進する。新たなストーリーに合わせてセレクトした資料の解説パネル等を作成する。
- ・本館には新規に見える収蔵庫を設置し、民俗資料等の収蔵状況を公開。
- ・新館の企画展示では、来訪者とともに、丹後を「探す」・「見つける」・「知覚する」ための、未完成のミュージアムとして、丹後・京都・世界の未来を考える展示を行う。
- ・本館ロビーでは、館蔵品や地域ゆかりの文化財の特徴をわかりやすく伝えつつ、パネルやパンフレット、映像機器などで文化資源の魅力を発信しながら来館者に常に疑問を投げかけ、新たな発見へと導く誘導をデザインや導線整備、コンテンツの充実などにより実現する

展示計画

本館展示室1F・2Fの新たにリニューアルする常設展示では、「地域で大切に受け継がれてきた生活文化」「日本海文化圏における丹後地域の歴史的な役割」をコンセプトとして、「暮らし」と「歴史・伝統伝承」のテーマに分けて、景観とのかかわりを物語る。

新館展示室等では、毎年景観など丹後の文化資源に関係する企画展示を行い、美観や魅力的な景観に紐づく特有の文化・暮らしに共感し、豊かな歴史を体感する構成とする。



(1) プロローグ 丹後半島の風土・成り立ち (本館ロビー)

地勢

高い山地を源流とする河川と、変化に富む海岸線がコンパクトに密集。周囲の山から海を眺める特有の視点を形成。

気候

特有の気象「うらにし」(秋の予測不可能な雨・風)がもたらす適度な湿気が、丹後の「織物生産」に最適な環境を提供。

恩恵

山から海へ流れ込む栄養豊富な水が、豊かな海の形成と水産業の発展に寄与。

(2) 総合展示 (本館 展示室)

【暮らし】

海に囲まれ、多くの山々がある丹後地域には、山の暮らし、海の暮らし、町の暮らし、それぞれの環境に合わせて、そこに暮らす人々が生み出した、生業・産業や文化が息づいている。生業にも関わる丹後の紡織文化を中心に、4つのテーマに分け、今につながる丹後の暮らしと文化を紹介する。

- ・丹後の紡織用具及び製品 (重要有形民俗文化財) / 丹後ちりめん / 藤織 / 紙漉ぎ
- ・丹後半島の漁撈用具 (登録有形民俗文化財)



伊根町「伊根浦」

穏やかな海と一体となった舟屋群。自然で素朴な歴史的風致を今に伝える和風の景観保全。



与謝野町「加悦」

縮緬生糸商家・工場・近代洋風建築が混在。江戸から昭和戦前期の重層的な歴史的風致。

○丹後の紡織文化

丹後では古代から絹織物の生産が行われており、江戸時代には西陣から独特の風合いを持つ「ちりめん織」技術を学んだ者たちにより、丹後にちりめんの技術がもたらされ、「丹後ちりめん」の名で全国に知られる一大産業となった。ここでは、ちりめんのほか漁業の際に作業着として使われた裂き織りや刺し子、山村の暮らしの中で冬の内職仕事で織られた藤織といった、海も山もある丹後半島ならではの紡織文化を紹介する (丹後ちりめん、裂き織り・刺し子、藤織)

○丹後の漁労

海に面している丹後では、それぞれの地形や魚種に合わせた漁業が行われた。ここでは内湾部では特に網漁がおこなわれ、伊根で獲れるブリは「伊根鰯」と呼ばれ江戸時代から丹後の名産品として知られた。また、湾に迷い込んできたクジラを取る捕鯨も行われていた。(漁労と道具、丹後の魚、伊根鰯・捕鯨)

○北前船

丹後の海には漁船だけでなく、北前船など交易を行なう船も行き交った。北前船は町の発展に影響を与え、各地の産物や文化をもたらすとともに、丹後ちりめんなどこの地の産物を全国に広めた。ここでは北前船による交易によってもたらされたものを紹介するほか、航海の安全を祈って寄進された品々から常に危険と隣り合わせであった船乗りたちの信仰心に迫る。(北前船による交易、船乗りたちの信仰)

○丹後の祭り

丹後では山車が出る祭りや、芸能が奉納される祭りなど様々な祭りが行われている。ここでは、丹後の特徴的な祭りを紹介するとともに、祭りで奉納される様々な芸能やハレの日の食事などからうかがえる、京都や若狭など周辺地域との交流について探る。(丹後の祭りの分布、山車が出る祭り、奉納される芸能、ハレの日の食事)

【歴史】

○丹後王国の栄光

古墳時代にヤマト王権の大王と並ぶ日本海側最大規模の前方後円墳を築造した丹後地域の特徴を、東アジアとの交流の中から解き明かす。

○都びとの憧れ一天橋立ー

天橋立は、古代から数多く歌に詠まれた歌枕で、多くの都びとが訪れ、国府や国分寺が隣接して置かれるなど政治や信仰の拠点としても重要な位置を占めた。単なる景勝地を超えて都びとのあこがれの地として多彩な文化を花開かせた天橋立の世界を紹介する。

○日本海に開く城下町／宮津・舞鶴

宮津と舞鶴は、安土桃山時代に織田信長から丹後支配を任された細川幽斎が居城を築いたことを契機に急速に発展する。江戸時代に入り、丹後国に入封した京極氏も宮津・舞鶴の城下町と港湾を整備し、宮津・舞鶴の発展の基礎を築いた。ここでは港湾都市宮津・舞鶴の発展に寄与した彼らの活躍を紹介する。

○丹後廻船と京文化

日本海を通じた交易は中世から整備され、江戸時代に入ってから、「北前船」廻船として整備された。丹後廻船でもたらされた物資は、京都へ運ばれ京文化の礎となった。

○伝説のふるさと・丹後

浦島太郎の物語が伝わる丹後地域は、大江山の鬼伝説や山椒大夫伝承、羽衣伝承など、数多くの伝説が生まれた地である。また、将軍足利義満の来丹を機に書かれた世阿弥の能「丹後物狂」など丹後地域ゆかりの物語世界を紹介する。

○信仰と仏教文化

丹後には丹後国分寺をはじめ多くの山岳寺院や神社が分布し、人々の信仰を集めた。ここでは丹後地域の寺社に伝来した貴重な絵画や工芸品、彫刻をとおして往時の人々の思いに迫る。

(3) 企画展示(新館展示室・本館展示室 1F)

丹後半島や天橋立など文化景観やその歴史の魅力を発信し、周遊観光につなげるため、地域の地形環境を背景とした景観・暮らし・歴史、アートやアクティビティなど多様なテーマを設定。「景観」を切り取るアートの視座を中心に展開するなど、常設展示のテーマと連動する情報を提供する。

「天橋立」：日本人の景観美と非日常への入り口



小式部内侍
「大江山いくのの道のとほければま
だふみもみず天橋立」(金葉集)
平安時代 治安三年頃(1023年頃)



結はがき 天橋立全圖 明治 12~19 年発行

- ・芸術的評価：古来より和歌、絵画(雪舟等)、庭園の対象として高く評価されてきた、日本人の景観美の体現。
- ・想像の手法「股のぞき」：日常の外側にある本来見ることができない世界(異国・異世界)を想像する特有の文化。
- ・景観の二面性：地域住民の「積み重ねられた記憶・営み」と、来訪者の「一瞬の感動・創造」が交差する場所。

(例) 時代を越えて切り取られてきた風景の視点からその推移を眺める



「天橋立図屏風」(江戸時代)



「股のぞき」絵巻書コレクション
(昭和時代)



【国宝】雪舟筆「天橋立図」
(室町時代・借用予定)



杉 杉本博司 天橋立
(借用予定)

近代の写真から歴史的絵画まで、多様な芸術作品
を通して天橋立の「美観」の変遷を辿る。

(4) 動線整備

その他のゾーン、アクセスルート（多目的室・ショップ・多目的ホール・展望カフェ・ホワイエ・旧永島家住宅・天平観展望所・バックヤード施設・付近バス停等）については、来館者の動向を適切に把握しながら、丹後天橋立の文化景観の意義をより深く伝えるための周遊コンテンツの改善、プログラム及び景観展望地点・サイン等の必要なハード整備を進め、文化景観をより深い理解に誘う仕掛けを充実させる。

情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）

WEB 上に丹後天橋立の文化景観の文化資源をわかりやすく紹介するコンテンツを整備、かつ個別の文化資料を知るデータベースを整備するとともに、スマートフォンやタブレットでも快適な閲覧ができるよう、掲載コンテンツの情報整理やレスポンス化を行う。

また、展覧会の音声ガイドやスマートフォンで閲覧できる解説プログラムを提供し、文化資源の解説コンテンツを整備していく。

(1) 展示解説

本館ロビーにおいて、展示を理解するための導入として丹後半島の成り立ちや地理・歴史・文化を概観する解説等の映像設備を設置する。

(2) 丹後地域の祭り・行事を記録する映像を配備

多目的室及び本館ロビーにおいて、これまでの数十年間、丹後地域の無形民俗文化財の調査を通じて、記録保存してきた貴重な祭り・行事の動画（DVD）を公開用に配備。現在はもう行われなくなった地域の珍しい映像から、地域の歴史・文化を学ぶことができる。

(3) ネットワーク環境の整備

常設展示の内容を多様な来館者に理解してもらえるよう展示解説パネルに QR コードを配備し、合わせて貸出用の情報端末機器を整備していく。

外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切な外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）

(1) 展示解説・案内表示・HP等の多言語化

展示資料の解説やパネルを多言語化するだけでなく、HPについてもインバウンド向けに広く情報発信するために多言語化を進める。

(2) パンフレットの多言語化

旧永島家住宅のパンフレットやこれまで実施した調査において、その内容を普及啓発する多言語パンフレット（英語・簡体字）を作成して配布したことがあるが、十分な取組であったとは言えない。今後、外国人観光客への対応を充実させていく。

6-2. 施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者との連携

6-2-1. 現状の取組

文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

これまで丹後天橋立ミュージアム主体で実施したイベント等で地域の観光・体験事業者等と連携し、ミュージアムライトアップ、熱気球体験、Eバイクによる天橋立等周遊ツアー、国分寺五重塔AR復元、旧永島家住宅をユニークベニューとした音楽会・食文化体験などを実施したが、持続する体制の構築には至らなかった。

文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

丹後天橋立ミュージアムへの入館者データや実施したイベントで個別にアンケートを収集したことはあったが、文化観光事業者と連携した体系的な整理までは至っていない。

文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立

KPIの設定に向け、観光事業者と検討に着手している状況

6-2-2. 本計画における取組

文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

丹後天橋立ミュージアムを中核とした「ハブ・ミュージアム」機能を発揮するため、官民が一体となった強固な連携体制を構築する。

以下の連絡会議・協議会を活用して、文化観光推進事業者が事務局機能を一部担い、マーケティング戦略の策定や広域周遊ルートの企画・調整を行う。

役割	会議及び参画機関等
天橋立文化観光周遊推進	連絡会議：宮津市・天橋立観光協会・府中観光会・丹後広域振興局（事務局 丹後天橋立ミュージアム）
丹後地域文化観光周遊推進	連絡会議：宮津市・京丹後市・伊根町・与謝野町・各市町観光協会・丹後海陸交通㈱・WILLER TRAINS㈱（事務局 丹後広域振興局）
日本遺産丹後ちりめん回廊文化観光推進	連絡調整会議：宮津市・与謝野町・伊根町・京丹後市・各市町観光協会等（事務局 海の京都DMO）

さらに、地域の文化観光事業者、交通事業者、商工団体、関係の学識経験者等とも連携が密になるようネットワークの構築に取り組む。

民間事業者とのパートナーシップ:

地域の宿泊施設や飲食店、アクティビティ事業者と連携し、ミュージアムの展示内容を深掘りする「特別体験メニュー」や「ガイドツアー」を共同開発する。ミュージアムショップやカフェにおいて、地場産品（丹後ちりめん、地酒、食文化等）の活用と販路拡大を推進する。

文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

文化観光推進事業者がマーケティングを行い、データに基づいた効果的な運営と施策展開を行う。

多角的なデータ収集:

ミュージアムの入館者データ（居住地、属性、訪日外国人比率等）と、DMOが保有する地域全体の観光動態データ、宿泊税関連データを統合・整理する。

Web サイト、SNS のアクセス解析、来館者アンケート（満足度、周遊先、消費額等）を継続的に実施する。

データ分析と共有:

収集したデータを共同で分析し、来館者のニーズや行動パターンを特定する。分析結果を申請者で共有し、展示企画の改善、プロモーションのターゲット設定、新商品の開発に反映させる。

文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立

日本三景「天橋立」を望む絶景そのものをミュージアムの体験とするコンセプトのもと、景観体験を「プロログ」（非日常への入り口）として、内外の体験をシームレスに繋ぎ、丹後の自然・歴史・文化を体感できる施設づくりに向け、数値目標の達成と継続的な改善を行う。

事業方針の策定:

施設のコンセプト・ストーリーを踏まえ、丹後の自然・歴史・文化を観光客が深く理解し、満足度の高い体験を提供することを基本方針とする。

KPI（重要業績評価指標）の設定:

「入館者数」「満足度（アンケート結果）」「外国人入館者数」を主要 KPI として設定し、令和 12 年度までに「入館者数 50,000 人」「満足度 85」「外国人比率 10%」を目指す。

PDCA サイクルの確立:

四半期ごとの進捗確認、年度末の評価報告会を実施する。評価・分析結果に基づき、具体的な改善案を提案し、次年度の事業計画へ反映させる仕組みを構築する。

6-3. 施行規則第 1 条第 2 項第 2 号の文化観光推進事業者との連携

6-3-1. 現状の取組

文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めたにぎわいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施

個別のイベントとして、ミュージアムライトアップやアートの屋外展示、熱気球体験、刀鍛冶の見学、音楽イベント×マルシェなどを実施してきたが、持続的ににぎわいづくりにはつながらなかったため、ミュージアムをシビックプライドとする地域の方々を中心としたミュージアムの関係人口の拡大に向けた組織体制づくりに取り組んでいる。

6-3-2. 本計画における取組

文化観光を推進するための交通アクセスの充実や地域のにぎわいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施

ミュージアム単体ではなく、府中地区や宮津市街地を含めた宮津市域及び丹後地域全体への波及効果を最大化する。

また、持続的ににぎわいづくりのため、2 次交通を利用したツアーに近隣商業施設への訪問を組み込む、京阪神方面からの観光ツアーを近隣宿泊施設と連携して造成するなど、ミュージアムの関係人口の拡大に向けた組織体制づくりに取り組んでいく。

交通アクセスの充実（2 次交通の強化）・周遊観光への誘導:

天橋立（一の宮棧橋）からミュージアムへの誘客を図るため、グリーンスローモビリティの活用を図るとともに、E バイクやレンタサイクルのポートをミュージアムに設置し、府中地区の周遊性を高める。

府中地区の文化資源（籠神社、真名井神社、国分寺跡等）を巡る音声ガイドアプリを整備し、徒歩や自転車での回遊を促進する。

「海の京都」DMO と連携し、ミュージアムを主要な立ち寄りスポットとする周遊バスやガイド付きツアーの運行を支援する。

周辺地域を含めたにぎわいづくり:

ミュージアムのリニューアルに合わせ、近隣博物館施設と連携した「ミュージアム・パス」の発行や、特別展示、地域事業者とのコラボメニュー開発を実施する。

また地域住民との交流会や地元製品の販売、地元の特産品や産業を PR する事業と企画展示を連携する。

ナイトタイムエコノミーの推進:

地域の観光協会等が観光事業として開催する、成相寺や天橋立の夜間のライトアップ期間に合わせて、ナイトミュージアムを開催するなど観光客の滞在時間の延長を図る。また、地域の宿泊施設等観光事業者と連携による、早朝や夜間コンテンツを開発し、宿泊客の増加につなげる。

ミュージアムガイドの活用:

育成したミュージアムガイドが、ミュージアム内だけでなく、周辺の施設や歴史スポットを案内するツアーを定期開催し、地域全体の活性化に寄与する。

以上の連携施策により、丹後天橋立ミュージアムは単なる展示施設に留まらず、文化観光推進事業者との強力なパートナーシップのもと、丹後地域全体の観光振興と経済活性化を牽引する中心的な役割を果たすものとする。

7. 文化観光拠点施設機能強化事業

7-1. 事業の内容

7-1-1. 文化資源の魅力の増進に関する事業

(事業番号 1-①)

事業名	ミュージアムの展示解説充実のための整備事業（本館展示室・ロビー）																																				
事業内容	景観の意義を伝える上で、地域特有の人と暮らし、それらを表す有形・無形の文化財は、非常に重要な文化資源である。これらは当館が 50 年余にわたり収集・保管してきた資料に加え、京都国立博物館等の他の博物館・大学・関係機関・個人等で所蔵している。 しかし文化資源の多くは脆弱であり全てが通年展示に耐えるものではなく、また当館の 11 万点以上の資源を展示を通じて有効に活用するため、常設展示では、「地域で大切に受け継がれてきた生活文化」「日本海文化圏における丹後地域の歴史的な役割」をコンセプトとして、「暮らし」と「歴史・伝統・伝承」のテーマに分けて展示を一新し、収蔵品を中心とした景観とのかかわりを物語る解説を充実する。解説は大テーマの元で小テーマを設定し、小テーマは入れ替えを行う。 またわかりやすい解説をするため、展示解説パネルや必要な造作物（複製資料、模型、教材等）を作成する。さらに、このテーマに沿って展示、体験、地域周遊のプログラムを設計し、日常と非日常を繋ぐことで、新規誘客やにぎわいを創出し、交流人口の創出につなげる。 (1) 常設展示リニューアル リニューアル後の本館展示室では、館蔵品や地域ゆかりの文化財の特徴をわかりやすく伝えるため、テーマごとに統一されたデザインの展示パネルや展示台の制作と、展示パネルについては多言語化を行う。 展示デザイナーの支援により、感じやすく理解しやすい展示のための空間デザインを行い企画や展示解説を補助する什器や備品（レプリカ・模型・触れて実感するめの体験素材等）を制作する。 (2) テーマストーリーや展示品に親しむ空間の創出 本館ロビーにおいて、展示品に楽しむための導入となる什器類やガイダンス用の模型などを設置し、来館者を効果的に誘導するための空間デザインを行い、リニューアルを印象付ける展示空間の創出を行う。 (3) 公式ガイド制作・多言語化 テーマ企画を解説した多言語化対応の公式ガイドを作成する。展示で紹介しきれなかった他の文化資源との関連性や地域周辺の見どころなどの情報も掲載し、さらなる理解促進と周遊につなげる内容とする。併せてガイドの多言語化を図る。 (テーマ案の一例) <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">展示 小テーマ案</th><th colspan="4">暮らし</th><th colspan="3">歴史・文化・伝承</th></tr> <tr> <th>海に暮らす</th><th>丹後の織物文化</th><th>祈りの世界</th><th>丹後の彩</th><th>海がつないだ世界</th><th>丹後王国を建国</th><th>中世丹後府中</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">作品案</td><td>丹後の漁撈具</td><td>丹後の紡績用具</td><td>奉納和船蛇綱、道切</td><td>天橋立図・厳島図屏風</td><td>大風呂南墳墓出土ガラス釧(重文)</td><td>奈具岡遺跡出土水晶玉作資料(重文)</td><td>丹後国分寺再縁起(重文)</td></tr> <tr> <td>船絵馬「幸福丸図」</td><td>藤織・裂き織</td><td>籠神社経塚出土品(重文)</td><td>祭屋台見送</td><td>青龍三年銘鏡(重文)</td><td>袈裟襷文銅鐸(重文)</td><td>雪舟天橋立図(国宝)</td></tr> </tbody> </table>							展示 小テーマ案	暮らし				歴史・文化・伝承			海に暮らす	丹後の織物文化	祈りの世界	丹後の彩	海がつないだ世界	丹後王国を建国	中世丹後府中	作品案	丹後の漁撈具	丹後の紡績用具	奉納和船蛇綱、道切	天橋立図・厳島図屏風	大風呂南墳墓出土ガラス釧(重文)	奈具岡遺跡出土水晶玉作資料(重文)	丹後国分寺再縁起(重文)	船絵馬「幸福丸図」	藤織・裂き織	籠神社経塚出土品(重文)	祭屋台見送	青龍三年銘鏡(重文)	袈裟襷文銅鐸(重文)	雪舟天橋立図(国宝)
展示 小テーマ案	暮らし				歴史・文化・伝承																																
	海に暮らす	丹後の織物文化	祈りの世界	丹後の彩	海がつないだ世界	丹後王国を建国	中世丹後府中																														
作品案	丹後の漁撈具	丹後の紡績用具	奉納和船蛇綱、道切	天橋立図・厳島図屏風	大風呂南墳墓出土ガラス釧(重文)	奈具岡遺跡出土水晶玉作資料(重文)	丹後国分寺再縁起(重文)																														
	船絵馬「幸福丸図」	藤織・裂き織	籠神社経塚出土品(重文)	祭屋台見送	青龍三年銘鏡(重文)	袈裟襷文銅鐸(重文)	雪舟天橋立図(国宝)																														
実施主体	京都府、公益社団法人京都府観光連盟、一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社																																				
実施時期	令和 8 ～ 12 年度																																				
継続見込	自主財源及び交付金、協力金等により継続																																				



アウトプット 目標	展示解説パネル、展示解説を補助する什器や備品（レプリカ・模型、触れて実感するための体験素材等）、公式ガイドブック
必要資金 調達方法	320万円（内訳：10.7万円（一般財源） 21.3万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

（事業番号1－②）

事業名	丹後の魅力を発信する企画・コンテンツ制作事業（新館展示室、多目的室）
事業内容	丹後半島や天橋立などの文化景観やその歴史の魅力を、常設展示をより拡張した高質な企画展示で発信、また話題性の高い伝統工芸作品や地域の景観に溶け込むアート、時事性の高いテーマなどに関する企画展示を開催する。企画は、地域産業とも連携させて特産品のPR等にもつなげる。 期間中に借用する作品については高精細映像を同時に作成し、会期後も常設展示を補完する映像として使用するほか、多目的室での映像機器等を通じて繰り返し活用する。また企画関連のハンズオンコンテンツを制作・拡充する。 1 丹後の魅力を伝える企画展示の実施 主に新館の展示室において、文化資源の魅力増進及びより深い理解につなげるため、展示デザイナーの支援を得ながら展示品の見せ方や空間デザインを設計し、パネルや解説を行い、企画展示を開催する展示解説の充実を図る。また企画した展示については詳細な記録映像を作成し、情報発信コンテンツ化する。 （1）丹後の風景美を発信する企画展示 ・「天橋立」や「立岩」など地域特有の景観を表現する美術作品や芸術作品（雪舟、蕪村、細川幽斎、歌麿、杉本博司、細川護熙、染色作品（小倉淳史氏（絞り染：京都府無形文化財保持者）等により魅力を発信する展示 ・ちりめん街道、伊根浦、琴引浜、立岩、成相寺、籠神社、智恩寺など地域の固有の文化資源を深く知る展示 （2）特色ある生活や技術の魅力を伝える企画展示 ・丹後固有の生活習慣や地域の風情、伝承されてきた習俗や祭礼、地域特有の技術などをわかりやすく伝える展示 （例）織物文化（丹後織物、藤織、紙漉き等） （例）食文化（へしこ、さば寿司、丹後ばらずし） （例）祭礼芸能（太刀振り、三番叟等） （3）歴史文化へのより深い理解を促す企画展示 ・大陸との交流や日本海交易を伝える文化資源を丁寧に解説し、資源に関連する現地への来訪や周遊を促す展示 （例）「丹後王国」、「日本海交流 北前船」、「丹後に伝わる伝説伝承」 ・地域の歴史を伝える神社、仏閣の美術工芸品や遺跡出土品の特徴を引き出す展示 （例）「丹後の仏教芸術」、「丹後の山岳寺院」、「丹後の城郭」等 （4）来訪者自身が未来を予想し、再訪して振り返る企画展示 ・近年の環境や価値観の変化を最先端技術革新等から、地域や訪問者自身の未来への想像を促す展示 （例）沿岸の環境変化をアンドロイドと語り合う「わたしたちの未来と天橋立」「丹後エキスポ2027」等 2 ハンズオン企画の実施 来館者に実際に触れてもらうことで、地域の歴史・文化への興味関心を喚起することを目指す五感で体験するプログラムや家族で楽しむハンズオンコンテンツを拡充する。 （例） ・地域の過去の歴史に興味関心を喚起する体験活用資料 （触れる）鏡・銅鐸・仏像・土器、ガラス小玉、琴、瓦 （使う）さおばかり、巻物、掛け軸など （遊ぶ）天橋立の「船越の松」を活用した遊具
実施主体	京都府、公益社団法人京都府観光連盟、一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社

実施時期	令和 8 ～12 年度
継続見込	自主財源及び交付金、協力金等により継続
アウトプット 目標	展示解説パネル・展示什器・解説映像・展示記録（映像・画像等）、ハンズオン企画
必要資金 調達方法	2 3 百万円（内訳：7. 7 百万円（一般財源） 1 5. 3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

（事業番号 1－③）

事業名	天橋立鳥瞰ホール利用促進事業（新館：多目的ホール）
事業内容	（1）天橋立を鳥瞰するユニークベニュー空間（眺望ホール）の内部デザイン・什器製作 他施設では得られない眺望体験（特別名勝天橋立や史跡国分寺跡）を提供し、天橋立砂洲や地域の名所を巡る散策に出かける動機を促すための空間設計と什器製作を行う。またホール自体もユニークベニューとして多様な活用を図るため、目的に応じた備品（映像投影機器や i-pad など）の選定や購入、眺望を楽しむための什器（室内家具）を製作する。 丹後の四季を感じ、「風景が、生きた景観にかわる」コンセプトのもと、デザイナーが眺望ホールの空間設計を行う。 （2）展示室とホールを接続するための導線設計 ユニークベニュー空間（眺望ホール）と展示室を心地よく接続し、移動を誘導するための導線設計をデザイナーが行い、これをディレクターが業務を統括する。
実施主体	京都府
実施時期	令和 8 ～11 年度
継続見込	自主財源・協力金等により維持
アウトプット 目標	空間デザインデザイン図・設計図、及び眺望体験を補助する什器等
必要資金 調達方法	2 8 百万円（内訳：9. 3 百万円（一般財源） 1 8. 7 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））



（事業番号 1－④）

事業名	地域産業と連携した持続的なアートプログラム開発事業
事業内容	地域の産業振興に貢献しつつリニューアル後の新たな役割を PR するため、主要産業であるちりめん織物工業、藤織などの手工業、特色ある食文化などをテーマにしたアート展示、インスタレーション、アクティビティ、ワークショップを企画開催し、開催したプログラムは、結果を踏まえて改良しながら、繰り返し定期的に開催する。 （例） ・アートサウンドイベント「機音の魅力」「海音の魅力」「カマド音の魅力」 ・アートインスタレーション「空気の流れを検知する丹後ちりめん × 茶室×茶会」 ・ワークショップ「丹後の織物遺産」及び関連するテキスタイル作品制作
実施主体	京都府、京都府織物・機械金属振興センター、公益社団法人京都府観光連盟、一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社（天橋立地域本部、京丹後地域本部、伊根地域本部、与謝野地域本部）
実施時期	令和 9 ～12 年度
継続見込	文化観光関係者・事業者との連携・協業を進め継続
アウトプット 目標	アートプログラム 3 件の開発、プログラム開催
必要資金 調達方法	1 6 百万円（内訳：5. 3 百万円（一般財源） 1 0. 7 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

(事業番号 1-⑤)

事業名	文化観光体験プログラムの開発実施事業
事業内容	団体観光客や個人旅行者向けに、年間を通じて体験可能なプログラムを開発し、観光事業者による主催旅行や関係団体などを通じて販売・実施する。 (1) 文化景観まち歩きツアーの開発 ・展示と関連した文化遺産（城下町など）・景観地（眺望地点）・古道（成相寺参詣道）をめぐりつつ解説するツアーを開発実施 (2) 歴史・文化体験 ・工芸技術体験（ガラス釧づくり、刀鍛冶の鍛錬見学、裂織・ちりめんのコースター製作、染色（板染め、草木染、弁柄染めなど）、水晶玉作り、ガラス玉作り、古代のアクセサリ製作、卷子、和綴じ本製作などをプログラム化し実施する。 ・生活文化体験（カマド・火起こし・糸車・紙漉き・藤織、古代人の生活体験、稲作×農具体験、箱めがね製作、こんにやく作り、飾りかまぼこ製作、引き札製作、ばら寿司作り、丹後型狍犬の絵付、衣装体験等）をプログラム化し実施する。 (3) バックヤードツアー（資料の収蔵・保管・管理を体感） ・舟の蔵、見える収蔵庫等の見学・解説を、プログラム化し実施する。 (4) 地域文化マルシェ・ワークショップ（地域生活文化の体験と商品販売） ・旧永島家住宅を拠点に、そば作り、紙漉き、藤織、茶道、音楽、郷土料理等の地域で行われている文化芸術体験メニューをプログラム化し実施する。 ・地域で生産された商品の販売イベント（マルシェ）を企画開催する。
実施主体	京都府、公益社団法人京都府観光連盟、一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社（天橋立地域本部、京丹後地域本部、伊根地域本部、与謝野地域本部）
実施時期	令和8～12年度
継続見込	参加料をもとに事業を継続
アウトプット目標	ツアー企画立案・造成、ツアー・ワークショップ・マルシェの開催
必要資金調達方法	15.5百万円（内訳：5.2百万円（一般財源）10.3百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

(事業番号 1-⑥)

事業名	早朝や夜間、休館日を活用した高付加価値プログラムの開発と実施
事業内容	個人や団体・企業に特別感のある体験を、開館時間外に提供するプログラム等を開発・実施する。 (1) 特別文化体験プログラムの開発 通常の博物館の展示鑑賞及び文化体験では得られない高付加価値（ホスピタリティ性の高い）な鑑賞体験を通じて、ターゲットとする富裕層や外国人にも響くプログラムを開発する。 (例) ・学芸員・専門家による特別展示解説やラボ（自らの探求につなげる） ・非公開ゾーンの特別見学による鑑賞体験 ・プロのアーティスト（クリエイター）による演奏会や茶会・演劇・演舞・朗読会 (2) 早朝・夜間の特別体験プログラムの開発 宿泊施設と連携した、早朝や夜間など特別な時間帯にプログラムやイベントを実施する。地域内での宿泊機会や滞在時間の増加を目指す。 (例) ・成相寺や天橋立のライトアップイベント開催日に、丹後国分寺跡・旧永島家住宅等のライトアップやアートインスタレーションを実施 ・ミュージアムの夜間開館、カフェの夜間営業、展示室・エントランス・ホール等の照明演出
実施主体	京都府、公益社団法人京都府観光連盟、一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社、一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社天橋立地域本部

実施時期 R	令和 8～12 年度
継続見込	参加費をもとに事業を継続
アウトプット 目標	プログラム 5 件の開発と実施
必要資金 調達方法	5 百万円 （内訳： 1． 7 百万円（一般財源） 3． 3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

(事業番号 1－⑦)

事業名	ミュージアムコーディネーター及びガイドの養成
事業内容	リニューアルするミュージアムを拠点に、来訪者が丹後の歴史・文化景観を深く、かつ、質の高い形で体験できる機会を創出するため、専門的な「企画力（コーディネート）」と「発信力（ガイド）」を兼ね備えた人材を育成し、満足度の向上と地域周遊の促進を図る。 （１）ミュージアムコーディネーターの養成 旅行事業者に向けての観光コンテンツ提案やガイドマニュアルの作成、旅行会社・メディア向けツアーの企画・運営等にかかる実務スキルを養成する。 （２）ミュージアムガイドの養成 オリジナルの講座テキストを編集、ミュージアムの専門知識（歴史・考古・民俗）に加え、高いホスピタリティ、歴史・文化を紹介する多言語対応、デジタルツールの活用術を習得する実践的な研修を行う。 多言語対応は、語学力を備えた人材（ネイティブ、通訳案内士など）を起用して文化資源について学び、対応できるように養成する。 （３）ガイドの活動支援と活動機会の提供 ガイド養成研修修了者に対し「丹後天橋立ミュージアム認定ガイド」などの認定証を授与し、認定ガイドを公式ウェブサイト等で紹介する。ガイドには適切な報酬を設定することで、継続的な活動を促す。 ミュージアム館内のガイドに加え、企画旅行や団体客向けの特別プログラム、イベント時のガイドなど、多様なガイド機会を提供するほか、コーディネーターは地域の宿泊施設、旅行会社、DMO、観光協会と連携し、ガイドを組み込んだ文化観光体験ツアー商品の企画を促進する。
実施主体	京都府、一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社（天橋立地域本部、京丹後地域本部、伊根地域本部、与謝野地域本部）
実施時期	令和 8～12 年度
継続見込	ガイド手数料等で自律的に収益を確保し、ガイドの能力向上を継続
アウトプット 目標	ガイド養成人数 10 人程度 （(1)：1 名 (2)：3 名 (3)：6 名程度）
必要資金 調達方法	3 4 百万円 （内訳： 1 1． 3 百万円（一般財源・ガイド料・体験料） 2 2． 7 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

7-1-2. 情報通信技術を活用した展示、外国語による情報の提供その他の国内外からの観光旅客が文化についての理解を深めることに資する措置に関する事業

(事業番号 2－①)

事業名	丹後の昭和時代風景・習俗・祭礼記録のデジタル化とコンテンツ造成事業
事業内容	地域の郷土史家が撮影しつづけた昭和の貴重な地域の風景や習俗を撮影した古写真をデジタル化し、館で映像コンテンツとして展示するとともに、撮影地点を掲載したデジタルパンフレットを作成し、来訪者が現地で現在の風景と見比べながら地域の変化を体感できる、周遊コンテンツを造成する。

	(1) 記録類の分類・目録化、作品情報の整理 (2) 記録類のデジタル化作業（必要に応じ高精細撮影） (3) コンテンツ制作および映像作成・展示、デジタルパンフレット制作 ・来館者が展示室及び建物内の各所に配置するQRコードを読み取ることで手軽に鑑賞できる仕組みを構築 ・地域及び観光事業者等に周知し、認知向上を図る。
実施主体	京都府
実施時期	令和9～12年度
継続見込	運営費等で継続的に実施
アウトプット目標	記録類のデジタル化（約2,000点）、映像・展示パネル・デジタルパンフレット制作、HP・館内放映のコンテンツ再生数（閲覧数）目標値：1万件（2500件×4年間）
必要資金調達方法	6百万円（内訳：2.6百万円（一般財源） 5.4百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

（事業番号2－②）

事業名	リニューアルする展示室の解説映像制作事業
事業内容	本館ロビーおよび新館多目的室において、天橋立や丹後の景観の魅力、丹後の通史や文化資源を概観し、展示作品を楽しむ導入として解説映像を制作する。 一度に展示することができない収蔵品の魅力を伝える引き出しとして、精細画像や音声解説で展示品を紹介し、歴史的背景を知るための映像を制作し、投影機器を導入する。 （例）テーマ案 「丹後・天橋立文化景観」「丹後の工芸技術」「伝統芸能」「食文化」「丹後発掘」「漁労習俗」「舟屋探訪（伊根・溝尻など）」「紡織技術」「祭礼行事」など （例）放映用途（各テーマ毎に、尺時間を異なる映像を制作） ① 多目的室で、深く知り・考えさせる探求用に放映（15分程度） ② 本館ロビーでの文化の魅力解説として放映（3分程度） ③ WEBや駅のサイネージ等での魅力発信ツールとして放映（15～20秒）
実施主体	京都府、公益社団法人京都府観光連盟、一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社、一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社天橋立地域本部
実施時期	令和8～12年度
継続見込	整備コンテンツは、PR、教育、展示・体験・ガイディング等、多様な利用を計画的に図る。
アウトプット目標	映像の再生回数（閲覧数）の目標値：4,500回（開館日250日/年×3.5年×制作本数5件）
必要資金調達方法	15百万円（内訳：5百万円（一般財源）10百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

（事業番号2－③）

事業名	ミュージアムの文化資源案内解説板の設置及び多言語化事業
事業内容	インバウンドへ向け、展示プランナーとデザインを行い館内外の施設や文化資源について、QRコードを使った多言語音声ガイド・案内板を制作・設置し、解説を提供する （1）館内（新館：展示室、本館：展示室、新館：天橋立鳥瞰ルーム・多目的室） （2）館外1（館敷地内の文化資源） （3）館外2（天橋立駅からミュージアムへの動線上の文化観光施設） ※内容は観光庁「How To 多言語解説文整備」に沿ったものとし、周辺の施設の多言語対応状況を踏まえ、観光事業者や外国人に直接、ネイティブの監修・指導を得ながら進める。

実施主体	京都府、一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社（天橋立地域本部、京丹後地域本部、伊根地域本部、与謝野地域本部）
実施時期	令和8～12年度
継続見込	運営費による継続
アウトプット目標	多言語音声ガイド・案内板の制作、設置
必要資金調達方法	14.5百万円（内訳：4.8百万円（一般財源） 9.7百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

（事業番号2-④）

事業名	ミュージアムを拠点とした天橋立・府中・丹後周遊のためのオーディオガイド等整備事業
事業内容	丹後天橋立ミュージアムを拠点とし、天橋立・府中・丹後の文化資源をめぐりながら周遊するオーディオガイド等を整備する。 （1）天橋立府中周遊ルートのモデル化と解説作成 京都丹後鉄道天橋立駅から傘松公園へ向かう主要交通手段となっている、丹後海陸交通の海上観光汽船のりば（府中一の宮）から、ミュージアムへの誘客ルートをモデル化し、ルート途中の文化資源を開発するオーディオガイド用を整備し、案内板を設置する。 （2）オーディオガイドを活用したウォーキングツアー等の実施 2次交通での周遊促進のため、オーディオガイドを活用したウォーキングツアー等を行う。オーディオ音声解説の多言語化にあたっては、観光庁「HOW TO 多言語解説文整備」を踏まえる。 （3）丹後周遊ルートのモデル化と解説作成、ルートツアーの実施 ミュージアムを拠点とした丹後地域に広がる文化景観を周遊するルートのモデル化と、オーディオガイド解説を整備するとともにツアーを実施し、ツアー回を重ねてブラッシュアップを図る。ルート設定やツアーの企画にあたっては、丹後各地の文化観光施設と連携し、文化景観の魅力を体験できるプログラムを検討する。 （例） 丹後地域の未解明な歴史、伝説、伝承、食文化のルーツ、鉄道、地域産業の変遷など、観光客が興味を持つ潜在的なストーリーや地域資源の掘り起こしを強化する。なお、地域の主要な文化資源である「丹後ちりめん」、「北前船」、「西国三十三か所」については、日本遺産に認定されており、そのストーリーを活用する。
実施主体	京都府、共同申請市町（宮津市・京丹後市・伊根町・与謝野町）、一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社（天橋立地域本部、京丹後地域本部、伊根地域本部、与謝野地域本部）
実施時期	R8～12
継続見込	プログラムを活用し、利用料収入で継続
アウトプット目標	天橋立府中周遊モデルルート・解説・ウォーキングツアー、オーディオガイド制作・整備、利用者数の目標値：700名（開館から3.5年間）
必要資金調達方法	21.5百万円（内訳：7.2百万円（一般財源） 14.3百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

7-1-3. 国内外からの観光旅客の移動の利便の増進その他の文化資源保存活用施設の利用に係る文化観光に関する利便の増進に関する事業

（事業番号3-①）

事業名	ミュージアム周辺文化資源の活用促進事業
事業内容	ミュージアム敷地内での回遊を促し、館での滞在時間の価値を高めるため、眺望の良い地点の各所にベンチや覆屋を設置し、新たな景観眺望地点とし、季節の花で彩られた鑑賞ロケーションなど、景観を楽しむ付加価値の高い演出を行う。丹後国分寺跡においては、遺跡の解説体験や、発掘調査が実施される際には、出土品に触れる体験なども実施する。
実施主体	京都府、宮津市、一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社（天橋立地域本部、京丹後地域本部、伊根地域本部、与謝野地域本部）、

実施時期	令和9～12年度
継続見込	ガイドプログラムの利用料により、必要経費を支出し、プログラムの利用を継続。
アウトプット目標	休憩用什器の制作、周遊観光中核イベントの開催
必要資金調達方法	160万円（内訳：5.3万円（一般財源） 10.7万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

(事業番号3-②)

事業名	チケット購入等の利便性向上
事業内容	外部サイト（マースアプリ）等との連携によるWEBのチケット予約・購入機能等の拡充 オンラインチケット販売サイトにおける前売り券の販売の検討を行う。 ・周辺観光施設と連携した共通周遊券・入館券・クーポン等の企画及び発行・販売 ・天橋立、伊根の舟屋、丹後ちりめん工房、地元温泉旅館、飲食店など、宮津市および丹後地域全体の観光資源と連携した周遊パスや共同プロモーションを展開し、当館の「海の京都」観光周遊拠点としての機能強化を図るとともに、地域全体の観光消費額の増加と地域活性化の好循環を生み出す。
実施主体	京都府、一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社
実施時期	令和8～12年度
継続見込	利用料の徴収による運営事業者により維持・管理継続
アウトプット目標	オンラインチケット販売システム導入・周遊券等の発行
必要資金調達方法	5.5万円（内訳：1.8万円（一般財源） 3.7万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

7-1-4. 文化資源に関する工芸品、食品その他の物品の販売又は提供に関する事業

(事業番号4-①)

事業名	カフェ食文化メニュー企画開発
事業内容	鑑賞・文化体験事業以外のアメニティで丹後天橋立らしさを醸成し、観光客に提供。 ・展示企画と連携した食文化メニューの開発（カフェ） 丹後管内の飲食店や運営事業者（今後公募）と連携し、常設展示や企画展示が示す、豊かなストーリーを思い起こさせるメニュー開発する。 開発したメニューは、提携飲食店や館内のカフェ、ホールでのイベント等において継続的に提供するものとし、来店者や来館者が丹後の食文化の歴史や魅力に、気軽に触れることのできる機会とする。
実施主体	京都府、一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社
実施時期	令和8～12年度
継続見込	
アウトプット目標	カフェ利用者目標数：8,750名（開館日250日/年×10名×3.5年）
必要資金調達方法	2.5万円（内訳：2.5万円 一般財源・運営事業者収入で実施）

(事業番号4-②)

事業名	グッズの企画開発
事業内容	鑑賞・文化体験事業以外のアメニティ部分で丹後天橋立らしさを醸成し観光客に提供。 ・限定グッズの企画開発（ショップ） ミュージアムグッズは、展覧会の鑑賞体験を記憶するメモリーツールであり、観覧者と非観覧者との会話の糸口になる。

	展示が示す豊かなストーリーを思い起こさせる素材として、観光客にとって訴求力のある商品を地元事業者等と連携して開発する。 ・地域の文化特性を代表する郷土料理や加工食品に関するアンケートと商品開発 丹後半島の健康長寿の秘訣を探る高齢者を対象とした郷土料理・加工食品（ちくわ・干物等）の消費者の志向をさぐるアンケート・生産者のわざをさぐる聞き取り調査を実施、調査成果を報告書にまとめ、ミュージアム独自の商品開発を行う。 ⇒京丹後市は100歳以上の人口比率が全国平均の約3倍（2025時点で100歳以上121人、日本屈指の長寿のまちとして知られている） ・丹後は長寿の方々が多いとのデータがあることから、長寿の方々が食していた食材にあやかる情報を提供するメニューを商品開発、ミュージアムショップの試験販売や多目的室映像で紹介を行い、地域での経済循環を創出する。
実施主体	京都府、一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社天橋立地域本部、京丹後地域本部、伊根地域本部、与謝野地域本部）、
実施時期	令和8～12年度
継続見込	運営事業者自主財源により継続
アウトプット目標	アンケート成果によるミュージアムグッズの試作品
必要資金調達方法	2. 5百万円（内訳：2. 5百万円 一般財源・運営事業者収入で実施）

7-1-5. 国内外における文化資源保存活用施設の宣伝に関する事業

（事業番号5－①）

事業名	認知度向上のための広報発信事業
事業内容	ミュージアムの魅力や取り組みをより広域に情報発信する。 （1）女性誌や旅行雑誌等への広告記事掲載（リニューアル企画情報・丹後周遊情報） ・丹後天橋立の関心層や多く訪れている女性層にアプローチするため、美術雑誌、ライフスタイル誌とのタイアップ記事掲載を行う。 （2）プロモーション事業 ・DMO と連携し、商談会等を通じて旅行会社への情報提供・プロモーション等を実施。 ・首都圏・関西圏での認知度の向上と来館者の増加を図るため、海の京都 DMO と連携し、東京にある京都府のアンテナショップを活用した PR などによる情報発信を行う。 ・タクシーやバス、運送事業者、交通機関等で館をPRする広告の掲出を検討する。
実施主体	京都府、公益社団法人京都府観光連盟、一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社（天橋立地域本部、京丹後地域本部、伊根地域本部、与謝野地域本部）
実施時期	令和8～12年度
継続見込	運営費を財源として継続する。
アウトプット目標	雑誌掲載記事、交通事業者向け広告物の制作、アンケート結果収集等
必要資金調達方法	4百万円（内訳：1. 3百万円（入館料） 2. 7百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

（事業番号5－②）

事業名	ホームページの拡充及びSNSを活用した広報強化事業
事業内容	現在のホームページは、京都府システムの仕様による制約により、館独自のデザインの採用やページ編成することが難しく、ミュージアムの魅力を十分伝えきれていない。 観光客に対して訴求力のあるウェブサイトとするために、ホームページを新たに公開するとともに、視覚的に楽しめるようなレイアウトを検討するとともに、オンラインチケット

	ト販売等についても検討する。戦略的広報、情報発信戦略を担える人材を計画期間中に雇用することも検討する。 また、地域の文化観光情報にアクセスしやすい工夫をするほか、東アジアや欧米豪から訪れる観光客（インバウンド）に対応できるよう、多言語化を行う（観光庁「HOW TO 多言語解説文整備」に沿ったもの）。
実施主体	京都府、公益社団法人京都府観光連盟、一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社、一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社天橋立地域本部
実施時期	令和8～12年度
継続見込	運営費を財源として継続する。
アウトプット目標	ホームページの閲覧目標数：5万人（365日/年×30名×4.5年）
必要資金調達方法	5百万円（内訳：1. 7百万円（一般財源） 3. 3百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

7-1-6. 7-1-1～7-1-5の事業に必要な施設又は設備の整備に関する事業

（事業番号6－①）

事業名	利便性向上のための施設改修及び設備整備事業（関連事業：1－⑤、1－⑦、2－③、2－④）
事業内容	駐車場進入経路およびその周囲の整備、トイレ改修、拠点周遊機能の強化のための施設整備を実施し、利用者の利便性の向上を図る。本事業は主に事業番号1－⑤文化観光体験プログラムの開発実施事業、1－⑦ミュージアムコーディネーター及びガイドの育成、2－③ミュージアムの文化資源案内解説板の設置、2－④ミュージアムを拠点とした天橋立・府中・丹後周遊のためのオーディオガイド等整備事業と関連し、徒歩や自転車バイクでの来訪者、またミュージアムでの駐車時や2次交通利用等にかかる利便性の向上、により来訪者の通信環境の向上を図る。 （1）駐車場進入路整備 現駐車場の道路からの進入口は、大型車両の進入、回転、退出にはやや狭く、特に路線バスの回転等に支障を生じる状況にある。大型車両（観光バス・路線バス）の進入、退出を容易にかつ安全にできるようにするためのゾーニングの検討や、侵入口の整備を行うことを検討する。 （2）駐車場内トイレの洋式化 駐車場内のトイレは、男女いずれも和式トイレとなっており。本館・新館外の施設利用者に対するホスピタリティを高めるため、和式を洋式化する。 （3）2次交通用ポート整備 ミュージアムへの誘客、府中周遊のためのグリーンスローモビリティ・キックボード・E バイク・レンタサイクルを配置するためのエリアの明示をする。かつ、屋根付きポート等の保管スペース・設備の整備を検討する。これらにより、観光事業者の活用の利便性を向上させ、天橋立・府中地区周遊の起点・目的地となることを目指す （4）Wi-Fi 環境の整備
実施主体	京都府、一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社天橋立地域本部
実施時期	令和8～12年度
継続見込	設備は継続して利用
アウトプット目標	設備の整備
必要資金調達方法	25百万円（内訳：8. 3百万円（一般財源） 16. 7百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

（事業番号6－②）

事業名	ミュージアム周辺のサイン整備（看板整備等）（関連事業：1－①、1－②、5－①）
事業内容	大阪・京都からミュージアムへのアクセスルートは、主に3ルートある。一つ目は京都縦貫道を使ったアクセスルートで、与謝天橋立 IC から国道 178 号線経由で至る、自家用車及び大型観光バスのルートである。二つ目は、京都丹後鉄道天橋立駅から伊根方面への

	向かう路線バス（1時間に1本程度運行）、三つ目が天橋立駅から、海上交通の汽船を利用して対岸の府中に渡り傘松公園をケーブルで往復する、通称「ゴールドルート」と呼称されるルートで、汽船の府中側ののりばである一の宮棧橋等と丹後天橋立ミュージアムは、距離2km、現在徒歩25分、もしくは路線バスで5分である。本事業は、主に事業番号1-①・②と関連した館活動の周知や、5-①認知度向上のための広報発信と関連した自家用車等利用者への館の所在情報の周知を図る (1) サインの新設 現在これら3ルートのミュージアムへの案内看板は、唯一最寄りバス停（国分）付近に、動線を示す案内板があるのみで、遠方からの来訪者にとっては、ミュージアムへの動線が明確でない。これら天橋立来訪者へのミュージアム（天橋立文化景観）の利便性向上のためサインを新設する。 (2) 既存のサインの改修 既存の道路標識や案内板を活用し、空きスペースでのサインの追加や展覧会毎の仮設的なサインの設置を検討する。 (想定される場所) 与謝天橋立 IC 出口や国道 178 号線沿線の交差点・バス停付近、天橋立駅構内周辺、特別名勝天橋立内のミュージアムがみえる眺望地点等
実施主体	京都府
実施時期	令和8～11年度
継続見込	サインは継続して利用
アウトプット目標	サイン設備の整備
必要資金調達方法	15.5百万円（内訳：5.2百万円（起債） 10.3百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

(事業番号6-③)

事業名	古民家・旧永島家住宅の環境整備事業（関連事業：1-①、1-⑤）
事業内容	体験メニューを体験する場として、敷地内に所在する古民家内外の環境を整備し、利便性を向上させる取組を行う。ミュージアム内での回遊を促し、滞在時間の価値を高める。 建物縁側からの眺めを新たな景観眺望地点とし、季節の花で彩られた鑑賞ロケーションを創出し、周遊環境を充実させる。本事業は、主に事業番号1-①と関連し旧永島家住宅でも体験型の民具展示を行い、事業番号1-⑤の文化体験プログラムで同住宅を拠点に紙漉き、藤織、そば作りのほか、文化体験、商品販売イベント（マルシェ）の開催などを企画する。 (例) ・建物内の冷房機器の整備や、畳の張替、茅葺屋根の葺替、建物周囲の不陸整形・排水路改修などにより環境整備を行う ・隣接する休耕地（田畑）を再整備し、景観作物（そば・楮）を植栽する ・「天平観」展望所を眺望景観スポットとして、住宅前庭の植栽を整備する
実施主体	京都府、一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社天橋立地域本部
実施時期	令和8～12年度
継続見込	
アウトプット目標	古民家の修理、屋内の環境整備、屋外環境・施設整備
必要資金調達方法	40百万円（内訳：13.3百万円（起債） 26.7百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

(事業番号6-④)

事業名	リニューアルする展示室の解説映像機器整備事業（関連事業2-②）
事業内容	丹後天橋立の文化景観に興味関心を高める（遊び）の場となる映像機器類を整備する。

	・映像上で、今昔、四季折々の丹後天橋立の文化景観をたのしむタッチパネル式モニターを本館ロビーに配備するほか、新館1階の多目的室では、周遊観光につながる情報発信のためのサイネージを設置する。また過去から現在まで、記録された丹後・天橋立の眺望景観の画像データを入れ、いつ頃のどこのデータか、来館者の好みに応じた景観を再生することができる映像機器などの設置も検討する。
実施主体	京都府
実施時期	令和8～12年度
継続見込	ガイド利用料による継続
アウトプット目標	映像機器の購入・設置
必要資金調達方法	37百万円（内訳：12.3百万円（起債） 24.7百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

（事業番号6－⑤）

事業名	カフェ整備（関連事業4－①）
事業内容	新館3階の展望エリアに設置予定のカフェは、建設工事ではカフェとして基本的な電気配線や水道栓の設置のみを行うが、滞在時間を増やし、機能を更に充実させるよう、厨房機器の設置や空間デザインの改善を加える。 例えば、屋外テラスから特別な眺めに浸れる没入感、落ち着いた空間を提供し、特有の食文化を心地よい空間で味わい、入館者の滞在時間の延長を目指す。 さらに、そのためのサインや備品製作等の検討を進め、スマートフォン・PCの充電サービスや電子マネー・キャッシュレス決済への対応可能なショップレジの整備等の事業を行って充実させてゆく。  スツールに豆知識をプリント 例) 天橋立、丹後を詠った和歌など   （イメージ例）
実施主体	京都府
実施時期	令和8～12年度
継続見込	設備は継続して利用
アウトプット目標	利用者目標数：8,750名（開館日250日/年×3.5年）
必要資金調達方法	5.5百万円（内訳：1.8百万円（一般財源） 3.7百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

（事業番号6－⑥）

事業名	ショップ整備（関連事業4－①）
事業内容	リニューアル後のミュージアムには、地下1階のエントランス部分にショップを設置する予定である。この場所では、ショップ空間として基本的な整備のみを行うが、滞在時間を長くするため、商品の販売状況を見ながら、空間を更に充実させるよう、小さな改善を加えて行く。 例えばテーマに応じた魅力的な商品の陳列や商品棚の設置、商品紹介パネルより、来館者の満足度向上、滞在時間の延長を目指す。そのため、ショップの商品配置に必要な棚や造作物の製作等を進めるほか、ショップにおける電子マネー・キャッシュレス決済への対応可能なショップレジの整備を検討する。
実施主体	京都府

実施時期	令和 8 ～12 年度
継続見込	設備は継続して利用
アウトプット 目標	電子マネーやキャッシュレス決済に対応するレジの導入整備 2 台以上、エントランス什器 5 台以上の導入、ショップ利用者目標数：17,500 名（開館日 250 日/年×3.5 年）
必要資金 調達方法	3 百万円 （内訳：0. 7 百万円（一般財源） 1. 3 百万円（文化観光推進事業補助金 （文化庁））

7-3. 必要な資金の額及び調達方法

令和8年度

総事業費	事業番号	所要金額	内訳	
85.0 百万円	事業番号1－①	4.0 百万円	1.3 百万円（一般財源）	2.7 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号1－②	3.0 百万円	1.0 百万円（一般財源）	2.0 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号1－③	2.0 百万円	0.7 百万円（一般財源）	1.3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号1－④	0.0 百万円	0.0 百万円（一般財源）	0.0 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号1－⑤	3.5 百万円	1.2 百万円（一般財源）	2.3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号1－⑥	1.0 百万円	0.3 百万円（一般財源）	0.7 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号1－⑦	1.0 百万円	0.3 百万円（一般財源）	0.7 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号2－①	0.0 百万円	0.0 百万円（一般財源）	0.0 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号2－②	3.0 百万円	1.0 百万円（一般財源）	2.0 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号2－③	3.0 百万円	1.0 百万円（一般財源）	2.0 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号2－④	2.0 百万円	0.7 百万円（一般財源）	1.3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号3－①	14.0 百万円	4.7 百万円（一般財源）	9.3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号3－②	1.5 百万円	0.5 百万円（一般財源）	1.0 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号4－①	0.5 百万円	0.5 百万円（一般財源等）	
	事業番号4－②	0.5 百万円	0.5 百万円（一般財源等）	
	事業番号5－①	0.5 百万円	0.2 百万円（一般財源）	0.3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号5－②	1.0 百万円	0.3 百万円（一般財源）	0.7 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号6－①	8.0 百万円	2.7 百万円（一般財源）	5.3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号6－②	5.0 百万円	1.7 百万円（起債）	3.3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号6－③	26.0 百万円	8.7 百万円（起債）	17.3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号6－④	3.0 百万円	1.0 百万円（起債）	2.0 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号6－⑤	1.5 百万円	0.5 百万円（一般財源）	1.0 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号6－⑥	1.0 百万円	0.3 百万円（一般財源）	0.7 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

令和9年度

総事業費	事業番号	所要金額	内訳	
93.0 百万円	事業番号1－①	10.0 百万円	3.3 百万円（一般財源）	6.7 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号1－②	5.0 百万円	1.7 百万円（一般財源）	3.3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号1－③	20.0 百万円	6.7 百万円（一般財源）	13.3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号1－④	4.0 百万円	1.3 百万円（一般財源）	2.7 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号1－⑤	1.0 百万円	0.3 百万円（一般財源）	0.7 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号1－⑥	1.0 百万円	0.3 百万円（一般財源）	0.7 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号1－⑦	13.0 百万円	4.3 百万円（一般財源）	8.7 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号2－①	1.0 百万円	0.3 百万円（一般財源）	0.7 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号2－②	3.0 百万円	1.0 百万円（一般財源）	2.0 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号2－③	3.0 百万円	1.0 百万円（一般財源）	2.0 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号2－④	4.5 百万円	1.5 百万円（一般財源）	3.0 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号3－①	0.5 百万円	0.2 百万円（一般財源）	0.3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号3－②	1.0 百万円	0.3 百万円（一般財源）	0.7 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号4－①	0.5 百万円	0.5 百万円（一般財源等）	
	事業番号4－②	0.5 百万円	0.5 百万円（一般財源等）	
	事業番号5－①	2.0 百万円	0.7 百万円（一般財源）	1.3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号5－②	1.0 百万円	0.3 百万円（一般財源）	0.7 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号6－①	5.0 百万円	1.7 百万円（一般財源）	3.3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号6－②	3.5 百万円	1.2 百万円（起債）	2.3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号6－③	7.5 百万円	2.5 百万円（起債）	5.0 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号6－④	3.0 百万円	1.0 百万円（起債）	2.0 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号6－⑤	2.50 百万円	0.83 百万円（一般財源）	1.67 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号6－⑥	0.50 百万円	0.17 百万円（一般財源）	0.33 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

令和10年度

総事業費	事業番号	所要金額	内訳	
77.0 百万円	事業番号1－①	8.0 百万円	2.7 百万円（一般財源）	5.3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号1－②	5.0 百万円	1.7 百万円（一般財源）	3.3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号1－③	3.0 百万円	1.0 百万円（一般財源）	2.0 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号1－④	4.0 百万円	1.3 百万円（一般財源）	2.7 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号1－⑤	5.0 百万円	1.7 百万円（一般財源）	3.3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号1－⑥	1.0 百万円	0.3 百万円（一般財源）	0.7 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号1－⑦	8.0 百万円	2.7 百万円（一般財源、体験料）	5.3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号2－①	1.0 百万円	0.3 百万円（一般財源）	0.7 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号2－②	3.0 百万円	1.0 百万円（一般財源）	2.0 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号2－③	2.0 百万円	0.7 百万円（一般財源）	1.3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号2－④	5.0 百万円	1.7 百万円（一般財源）	3.3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号3－①	0.5 百万円	0.2 百万円（一般財源）	0.3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号3－②	1.0 百万円	0.3 百万円（一般財源）	0.7 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号4－①	0.5 百万円	0.5 百万円（一般財源等）	
	事業番号4－②	0.5 百万円	0.5 百万円（一般財源等）	
	事業番号5－①	0.5 百万円	0.2 百万円（一般財源）	0.3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号5－②	1.0 百万円	0.3 百万円（一般財源）	0.7 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号6－①	4.0 百万円	1.3 百万円（一般財源）	2.7 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号6－②	3.5 百万円	1.2 百万円（起債）	2.3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号6－③	4.5 百万円	1.5 百万円（起債）	3.0 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号6－④	15.0 百万円	5.0 百万円（起債）	10.0 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号6－⑤	0.50 百万円	0.17 百万円（一般財源）	0.33 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号6－⑥	0.50 百万円	0.17 百万円（一般財源）	0.33 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

令和11年度

総事業費	事業番号	所要金額	内訳	
70.5 百万円	事業番号1－①	5.0 百万円	1.7 百万円（一般財源）	3.3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号1－②	5.0 百万円	1.7 百万円（一般財源）	3.3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号1－③	3.0 百万円	1.0 百万円（一般財源）	2.0 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号1－④	4.0 百万円	1.3 百万円（一般財源）	2.7 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号1－⑤	5.0 百万円	1.7 百万円（一般財源）	3.3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号1－⑥	1.0 百万円	0.3 百万円（一般財源）	0.7 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号1－⑦	6.0 百万円	2.0 百万円（一般財源、体験料）	4.0 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号2－①	1.0 百万円	0.3 百万円（一般財源）	0.7 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号2－②	3.0 百万円	1.0 百万円（一般財源）	2.0 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号2－③	4.5 百万円	1.5 百万円（一般財源）	3.0 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号2－④	5.0 百万円	1.7 百万円（一般財源）	3.3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号3－①	0.5 百万円	0.2 百万円（一般財源）	0.3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号3－②	1.0 百万円	0.3 百万円（一般財源等）	0.7 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号4－①	0.5 百万円	0.5 百万円（一般財源等）	
	事業番号4－②	0.5 百万円	0.5 百万円（一般財源）	
	事業番号5－①	0.5 百万円	0.2 百万円（一般財源）	0.3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号5－②	1.0 百万円	0.3 百万円（一般財源）	0.7 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号6－①	3.0 百万円	1.0 百万円（一般財源）	2.0 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号6－②	3.5 百万円	1.2 百万円（起債）	2.3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号6－③	1.5 百万円	0.5 百万円（起債）	1.0 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号6－④	15.0 百万円	5.0 百万円（起債）	10.0 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号6－⑤	0.50 百万円	0.17 百万円（一般財源）	0.33 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号6－⑥	0.50 百万円	0.17 百万円（一般財源）	0.33 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

令和12年度

総事業費	事業番号	所要金額	内訳	
46.5 百万円	事業番号1－①	5.0 百万円	1.7 百万円（一般財源）	3.3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号1－②	5.0 百万円	1.7 百万円（一般財源）	3.3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号1－③	0.0 百万円	0.0 百万円（一般財源）	0.0 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号1－④	4.0 百万円	1.3 百万円（一般財源）	2.7 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号1－⑤	1.0 百万円	0.3 百万円（一般財源）	0.7 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号1－⑥	1.0 百万円	0.3 百万円（一般財源）	0.7 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号1－⑦	6.0 百万円	2.0 百万円（一般財源、体験料）	4.0 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号2－①	3.0 百万円	1.0 百万円（一般財源）	2.0 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号2－②	3.0 百万円	1.0 百万円（一般財源）	2.0 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号2－③	2.0 百万円	0.7 百万円（一般財源）	1.3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号2－④	5.0 百万円	1.7 百万円（一般財源）	3.3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号3－①	0.5 百万円	0.2 百万円（一般財源）	0.3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号3－②	1.0 百万円	0.3 百万円（一般財源）	0.7 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号4－①	0.5 百万円	0.2 百万円（一般財源）	0.3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号4－②	0.5 百万円	0.5 百万円（一般財源等）	
	事業番号5－①	0.5 百万円	0.5 百万円（一般財源等）	
	事業番号5－②	1.0 百万円	0.3 百万円（一般財源）	0.7 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号6－①	5.0 百万円	1.7 百万円（一般財源）	3.3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号6－②	0.0 百万円	0.0 百万円（起債）	0.0 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号6－③	0.5 百万円	0.2 百万円（起債）	0.3 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号6－④	1.0 百万円	0.3 百万円（起債）	0.7 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号6－⑤	0.50 百万円	0.17 百万円（一般財源）	0.33 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
	事業番号6－⑥	0.50 百万円	0.17 百万円（一般財源）	0.33 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
事業総計		372.0 百万円		

8. 計画期間

令和8年(2026)度～令和12年(2031)度

令和8年度：計画事業内容検討、プログラム開発、一部事業開始

令和9年度：プログラム試行、計画事業順次実施、年度別評価及び改善

令和10年度：計画事業の集中実施、年度別評価及び改善、中間評価

令和11年度：計画事業展開、令和10年度までの事業成果及び中間評価を踏まえた事業のブラッシュアップ

令和12年度：計画事業展開、最終評価、令和12年度以降の継続体制確